

平成20年度
日野市立教育センター紀要
第5集



日野市立教育センター

教育センター運営審議会(第1回)



調査研究事業発表会(平成21年2月19日)



わかば教室の活動

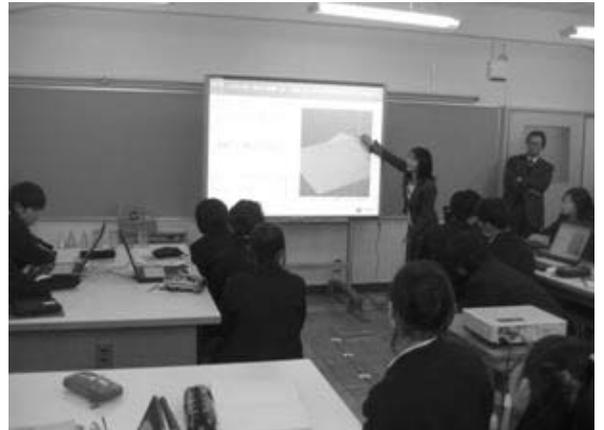


<栽培活動>

〔教職員研修体系に関する研究〕



〔ICTを活用した実践的な研究〕



〔理科教育推進研究〕



〔ひのっ子教育 21 開発委員会研究〕



〔郷土教育推進研究〕



目次

あいさつ

「教育センター紀要第5集の発刊に当たって」	日野市立教育センター所長 篠原 昭 雄	・・・ 2
「教育センターそして学校教育基本構想」	日野市教育委員会教育長 加島 俊 雄	・・・ 3
教育センターの部・係(担当).....		4

I 調査研究部の事業

1 基礎調査研究係	「教職員研修の在り方に関する研究」.....	5
2 教育経営係	「ICTを活用した実践的な研究」.....	15
3 教科等教育係	「理科教育推進研究」.....	25
4 ふるさと教育係	「郷土教育推進研究」.....	30
5 教育資料・広報係	教育資料・教育センターだより・教育広報「ひのっ子教育」.....	38
6 教科等教育係	「ひのっ子教育21開発委員会研究」.....	43

II 研修部の事業

1 教職員研修係	日野市教育委員会主催研修会から.....	47
----------	----------------------	----

III 相談部の事業

1 一般教育相談係.....	49
2 学校生活相談係.....	60

資 料

日野市立教育センター設置条例・施行規則.....	68
日野市立適応教室設置要綱.....	70
編集後記.....	72

教育センター紀要第5集発刊にあたって

日野市立教育センター
所長 篠原 昭雄

開設されて5年、平成20年度の教育センター紀要は第5集になります。新学習指導要領への移行と日野市の学校教育基本構想の策定により、日野市においても学校教育向上のための新たな教育課題が明確になり、それへの対応が求められています。

教育センターでは、それらの課題や施策に生かし得るシンクタンクとしての調査・研究とその普及、教育の質的向上を図る教職員研修及び保護者や子どものニーズに応える教育相談という三つの部で事業を進めてきました。

今年度もまた、これらの重要な課題に挑戦してきました。調査研究部の基礎調査係では、新たな学校教育課題への対応と同時に、学校教育を支える若手教員の増加などにより“教職員の資質向上”が一段と求められることから、市としての教職員研修とその体系的な在り方について研究を行いました。また、教育経営係では、学校のICT教育環境が整えられたことから、その「定着と活用の年」として「算数・数学」「国語」などを取り上げ、研修を含めて実践的な研究を進めてきました。

教科等教育係では、理科教育の振興が一段と求められている状況に鑑み、ICT活用を生かした理科教育推進研究と、同じく理科教育の充実を目指す「ひのっ子教育21開発研究」とを連携させて活動を進めてきました。

ふるさと(郷土)教育係では、この教育の研究とその普及を進めて4年、日野の郷土教材の開発と活用、「郷土資料館」「図書館」「歴史館」など社会教育資源の活用など郷土教育推進研究を行い、それを『指導事例集第4集』として刊行しました。教育資料・広報係は、センター資料室の教育図書・資料の保存と活用及びセンター活動・事業の広報を行うとともに、電子化を含む利用システムの整備を行ってきました。

研修部は、若手教員の増加や教職員の資質向上が求められることに応えて、学校課指導担当との連携を一層密にし、所員の豊かな教育キャリアを生かして教職員研修の充実を図ってきました。特に本年度は、諸研修において強力にサポートするとともに、授業力向上のための2・3年次教員の研修及び初任者研修を担当し、大きく貢献しました。

相談部は、一般教育相談係「教育相談室」と学校生活相談係「適応指導(わかば)教室」などですが、両者とも利用者が年々大幅に増え、また、特別支援教育にも関係して複雑化し、それへの対応に力を注いでいます。その成果は、本紀要とともに、所員(相談員)が相談活動を進めながら学術的に研究したものを収録し『研究紀要』(第5号)として刊行しています。

以上の諸事業の推進にあたっては、それぞれの趣旨・目的に向かって多くの先生方や行政関係者のご支援をいただきました。特に調査研究の事業では、諸先生方や指導主事の方々のご指導・ご協力を得て、所員一同それぞれの課題にチャレンジし懸命に取り組んできました。本紀要には、このような取り組みの成果が色濃く内包されています。

最後になりましたが、教育センターの活動に賜りました日野市教育委員会、学校教職員、社会教育関係者など多くの方々のご理解・ご支援に対し、紀要第5集の発刊にあたって心から御礼申し上げます。

教育センターそして学校教育基本構想

日野市教育長 加島俊雄

昨年4月、平山小学校が新校舎に移転し、秋には日野市初のコミュニティ・スクールの指定を受けました。その実践研究の報告会が、学校運営協議会委員や地域の学校支援ボランティアをはじめ多くの方々の参加を得て2月にありました。平山小学校が地域とともに活動している姿や今後の発展の方向性が示され、統合新校として発足した平山小学校の新しい歴史の刻みに、大きな期待が寄せられました。

平山小学校のコミュニティ・スクールへの取り組みは、それに先行した教育センターの調査研究報告（17年度）を踏まえて進められたものですが、本年も、教育センターの調査研究の発表会が2月に実施されました（本年のテーマは、①教職員の研修体系②ICTの活用③理科教育④郷土教育の4本でした。）。教育センター発足以来の、毎年の意義ある調査研究の積み重ねの中で、教育センターの実践的な調査研究機能は日野教育の中にしっかりとビルトインされてきたと感じています。

さて、本年2月、「教育のまち日野（学校教育基本構想）」が策定されました。この基本構想は、平成10年に策定された教育ビジョン「ひのつ子教育21—基本と先進—」を引き継ぎながら、その後の教育環境の変化に対応して、今後の日野教育の方向性を明らかにしたものです。

基本構想は、

- ① 子どもたちに「生きる力」を育むこと
- ② 「特色ある学校づくり」を進めること
- ③ 「時代とともに歩む教育」に取り組むこと、

を3つの基本方針として掲げています。

日野市は、今後、基本構想に沿って学校教育の充実に努め、「教育のまち日野」を目指していくこととなります。教育センターは、教育相談、教員研修、調査研究の3機能を果たしていますが、主に、教育相談は基本方針の生きる力に、教員研修は特色ある学校づくりに、調査研究は時代とともに歩む教育にそれぞれ関連し、基本構想推進の大切な一翼を担うことが期待されています。

基本構想は、学校改革について特に「現場発」を謳っています。「事件は現場で起こっている、会議室で起こっているわけではない。」という台詞をよく聞きますが、子どもたちの生活領域である、学校や地域で何が課題になっているのか、どんな新しい動きがあるのか、現場からの発信を注視し、受け止めていく柔軟性に富んだ視点がもとめられています。

教育センターは日野教育のシンクタンクとして、日野教育を創造していく拠点の役割を担っています。各地の先進的な取り組みに対してアンテナを張るとともに、日野教育の実態に即して、現場主義を基本に、引き続き日野教育を先導、バックアップすることをお願いいたします。

平成20年度 教育センターの部・係 (担当)

所 長

篠原 昭雄

主任研究員

教育部参事

浮須 勇人

教育センター担当指導主事

鈴木 基

事務長

半田 実

調査研究部

○印 (係主担当)

○基礎調査研究係 教職員研修体系に関する研究

主任 ○品田 敏男

○教育経営係 「ICTを活用した実践的な研究」

○河野 和昌

○下山 栄子

○教科等教育係 理科教育推進研究

主任 ○大澤 真人

高橋 茂子

○ふるさと教育係 「郷土教育推進研究」

○丘 博光

○教育資料・広報係 「教育図書・資料・教育広報・紀要」等の整理・貸出・編集及び電子化準備等

○高橋 茂子

○二馬 誠志郎

研修部

○教職員研修係

主任 ○井内 幹雄

○田澤 茂

○二馬 誠志郎

河村 好人

相談部

○一般教育相談係

主任 ○河村 好人

教育相談員 (カウンセラー)

〃

〃

〃

○望月 桂

○織田 順

○渡辺 弥生

○富永 和喜

○学校生活相談係

適応指導「わかば」教室

主任 ○木内 秀雄

「健全育成」等

○坂井 治子

「適応指導」等

○下山 栄子

適応指導教室カウンセラー

○西留 譜美

(学校課出向)

○佐原 澄夫

事務部

○事務職員

○弘田 裕子

○用務員

○飯田 良一

I 調査研究部の事業

- 1 基礎調査研究係
「教職員研修の在り方に関する研究」
- 2 教育経営係
「ICTを活用した実践的な研究」
- 3 教科等教育係
「理科教育推進研究」
- 4 ふるさと教育係
「郷土教育推進研究」
- 5 教育資料・広報係
教育資料・教育センターだより・教育広報「ひのっ子教育」
- 6 教科等教育係
「ひのっ子教育 21 開発委員会研究」



1 基礎調査研究係

教職員研修の在り方に関する研究

教職員研修在り方研究委員会

I. 研究の目的（この研究を取り上げた理由）

- ・教育基本法の改正、中教審の答申、新学習指導要領の実施など学校教育の改革、とりわけ教員研修の在り方の改善が求められている。
- ・日野市では、「日野市学校教育基本構想」が策定され、新たな学校教育の在り方が模索されている。それを受けて、『ICT活用教育』『特別支援教育』『小中連携教育』などの推進が学校教育の重点目標として設定され、日々実践が進められている。
- ・日野市では、ここ数年若手教員の増加により教職員の構成も大きく変わり、授業改善をめざす教師力の向上とともに、教員研修の重要性が増している。
- ・日野市の教職員研修は、教育委員会設定の研修、各校の校内研修、教育研究団体（小教研・中教研）及び個人研究等の自主的研究がある。それぞれの研修内容の充実、研修体系の工夫を図ることによって、教職員研修をさらに高めることができる。
- ・以上のことを踏まえ、日野市の教職員研修の在り方を見直し、検討をおこなう。

II. 研究の課題（内容）

- ①日野市の教育が求める教師の姿（教師像）を明らかにする。
- ②日野市の教職員が身に付ける力（資質・能力）を明らかにする。
- ③日野市の「教員研修体系」を明らかにする。
- ④若手教員の指導について検討する。

III. 研究委員会の構成

学識経験者	高浦 勝義	(明星大学教授)
委員長	山口 俊浩	(日野第三中学校長)
副委員長	古宮 キヨ子	(平山小学校長)
	浮須 勇人	(日野市教育委員会参事)
	五十嵐俊子	(日野市教育委員会統括指導主事)
	梶野 明信	(日野市教育委員会指導主事)
	篠原 昭雄	(日野市立教育センター所長)
	品田 敏男	(日野市立教育センター所員)

IV. 研究課題（研究内容）について

1. 日野市の教育が求める教師の姿（教師像）

「日野市学校教育基本構想」では、「信頼される学校経営と教職員の養成」の項目で、『日野市の教員に特に求められるものは、Sense of MAP（Mission 使命 Action 行動 Passion 情熱の精神）と、深い子ども理解やICT活用等の高い授業力である。校長の経営方針のもと教職員が一丸となって、日々子ども達の健やかな成長のために力を尽くします』と述べている。そして、主要施策のなかで、「教員の資質・能力の向上を図るために、人材育成方針を策定するとともに研修体系の見直し・整備や、学校での実践的な研修・研究を推進します」と提起している。本委員会でも、この3点の資質・能力が、本市が求める教師の姿（教師像）として適切であると考えられる。

①. Sense of MAP

(Mission 使命 Action 行動 Passion 情熱の精神)

使命、行動、情熱の精神を身につけた教師の姿とは、教員の仕事に対する使命感、子どもに対する受容や愛情、豊かな人間性や社会性、常識や教養、品性、時間や苦労をいとわない熱き行動力によって子ども達を感化していく教師の姿である。

②. 深いこども理解

深いこども理解とは、子どもの気持ちや感覚を常に大事にする教師である。子ども達の悩みをしっかりと受け止め、様々な問題の原因をつかみ、適切に対応できる力をもった教師である。

③. ICT活用などの高い授業力

高い授業力をもつ教師とは、教育の専門家としての確かな力量をもち、わかる授業を進めようとする教員である。子ども理解力、授業力、学級経営力などで優れた力を発揮する教師である。

2. 日野市の教員が身につける力（資質・能力）

(1) 都教育委員会提言の「身に付けるべき4つの力」の検討

昨年10月、東京都教育委員会は、学校教育に対する都民の期待の高まり、それに伴う教育活動の充実を図るために、教員が身に付けるべき4つの力を提起した。

主に、教育活動において求められる『学習指導力』『生活指導力・進路指導力』、そして学校の在り方、今日的な課題への対応として求められる『外部との連携・折衝力』『学校運営力・組織貢献力』である。それぞれに下記のような、身に付けるべき具体的な力を提起している。

ア. 学習指導力

- ・授業をデザインする力
- ・ねらいに沿って学習を進める力
- ・児童生徒の興味を引き出し、個に応じた指導をする力
- ・主体的な学習を促すことができる力
- ・学習状況を適切に評価し、授業を進める力
- ・授業を振り返り、改善する

イ. 生活指導力・進路指導力

- ・児童・生徒と良好な関係を構築する力
- ・児童・生徒の思いを理解し、適切に指導する力
- ・児童・生徒の個性や能力の伸長並びに健全な心身及び社会性の育成を通して自己実現を図らせる力
- ・自校の生活指導・進路指導上の課題を発見し、解決する力

ウ. 外部との連携・折衝力

- ・保護者・地域・外部機関に適切に対応する力
- ・課題に応じ保護者・地域・外部機関と連携を取り、解決に向けて取り組む力
- ・保護者・地域・外部機関との協働のもと、自校の教育の向上をはかる力
- ・学校からの情報発信や広報、保護者・地域・外部機関からの情報収集を適切に行う力

エ. 学校運営力・組織貢献力

- ・校務において企画・立案する力
- ・上司や同僚とコミュニケーションをとりながら、円滑に校務を遂行する力
- ・組織の一員として校務に積極的に参画する力
- ・校務の問題点を把握し改善する力

(2) 日野市の重点課題（ICT活用教育・特別支援教育・小中連携教育）及び「学校教育基本構想」の

検討

本委員会は、都教委が提起する「身に付けるべき4つの力」を検討し、日野市の教員が身につける力（資質・能力）と大筋合致していることを確認した。併せて、日野市の独自の重点課題であるICT活用教育、特別支援教育、小中連携教育、さらに学校教育基本構想を推進する上で、日野市の教員に必要なとされる「指導力」を「4つの力」の観点から、当てはまり適用するかを検証した。

①. ICT活用教育を推進するうえで必要な指導力

本市は、ここ3～4年ICT活用教育を最重要課題として実践してきた。全国的にも3本の指に入る高い評価を受けるようになった。教員はこの間、『教員のICT活用指導力チェックリスト』に基づき、指導力を向上させてきた。以下に示すように、これらの指導力は、それぞれ4つの力に該当している。

ア. 学習指導力

- ・授業改善、指導の準備、評価などにICTを活用する力
- ・児童・生徒のICT活用を指導する力

イ. 生活指導力・進路指導力

- ・情報モラルなどを指導する力

ウ. 外部との連携・折衝力

- ・保護者・地域にICTを使って情報発信する力

エ. 学校運営力・学校貢献力

- ・校務にICTを活用する力

②. 特別支援教育を推進するうえで必要な指導力

特別支援教育の高まりの中で、日野市は特別支援学級、通級学級、リソースルームなどの実施体制、支援体制の確立を強化してきた。そして、教員には、理論的にも、実践的にも速やかに対応できる指導力の向上が求められ、コーディネータの養成など各種の研修会を実施してきた。下記の『特別支援教育コーディネータ養成研修会』（20年度）の指導内容においても、4つの力が研究実践されてきた。

ア. 学習指導力

- ・個別指導計画を作成する力

イ. 生活指導力・進路指導力

- ・発達障害についての理解と指導する力

ウ. 外部との連携・折衝力

- ・関係機関との連携をはかる力

エ. 学校運営力・組織貢献力

- ・校内体制の連携を確立する力
- ・リソースルームを運営する力

③. 小中連携教育を推進するうえで必要な指導力

大坂上中学校、日野第三小学校、日野第七小学校、東光寺小学校は、18～19年度に文科省の指定を受け、小中連携教育の実践発表が行われ大きな成果を残した。その成果は、日野市の全小中学校に敷衍されている。下記に示した小中連携教育を推進していく上で必要とされる指導力も、それぞれが4つの力に該当している。

ア. 学習指導力

- ・ 9年間を見通した系統的な指導計画を作成・実施する力
- ・ 小中の接続を考え、学習の定着・心と体の健康をはかる力
- イ. 生活指導力・進路指導力
 - ・ 相互理解を深め、規範意識や生活習慣の確立をはかる力
- ウ. 外部との連携・折衝力
 - ・ 学校・保護者・地域が一体となった指導体制を確立する力
- エ. 学校運営力・組織貢献力
 - ・ 学校文化の違いを理解し、各校の特色を伸ばす力

④. 学校教育基本構想を推進するうえで必要な指導力

日野市は本年度『日野市学校教育基本構想（教育のまち 日野）』を策定し、教育目標をはじめ、学校教育についての全体的な見直しが行われた。日野市の教育目標を実現するための3つの基本方針と11の項目と主要施策が提起され、日野市の教員に求められる指導力が示された。これらの指導力も4つの力に該当している。

- ア. 学習指導力
 - ・ 確かな学力を向上させる力
 - ・ 健やかな体、食の大切さを指導する力
 - ・ 国際化・情報化・環境問題など新たな課題を指導する力
- イ. 生活指導力・進路指導力
 - ・ 豊かな心を育てる力
 - ・ 地域ぐるみ安全・安心な学校づくりを進める力
- ウ. 外部との連携・折衝力
 - ・ 一人ひとりの教育的なニーズに応じた特別支援教育を推進する力
- エ. 学校運営力・組織貢献力
 - ・ 開かれた学校、見える学校づくりを進め、教育力のある学校を築く力
 - ・ 人間形成の基礎を培う幼児教育を進める力
 - ・ 信頼される教職員を育て、特色ある学校づくりを進める力

(3). 以上のような検討を踏まえ、表（1）を『日野市の教員が身に付ける力』として提起する。

表（1） 日野市の教員が身に付ける力

	学習指導力	活指導力・ 進路指導力	外部との連携・ 折衝力	学校運営力・ 組織貢献力
身に 付け る 力 (都)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をデザインする力 ・ねらいに沿って学習を進める力 ・児童・生徒の興味を引き出し、個に応じた指導をする力 ・主体的な学習を促すことができる力 ・学習状況を適切に評価し、授業を進める力 ・授業を振り返り改善する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒と良好な関係を構築する力 ・児童・生徒の思いを理解し、適切に指導する力 ・児童・生徒の個性や能力の伸長並びに健全な心身及び社会性の育成を通して自己実現を図らせる力 ・自校の生活指導・進路指導上の課題を発見し、解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域・外部機関に適切に対応する力 ・課題に応じ保護者・地域・外部機関と連携をとり解決に向けて取り組む力 ・保護者・地域・外部機関との協働の下、自校の教育の向上を図る力 ・学校からの情報発信や広報、保護者・地域・外部機関からの情報収集を適切に行う力 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務において企画・立案する力 ・上司や同僚とコミュニケーションをとりながら、円滑に校務を遂行する力 ・組織の一員として校務に積極的に参画する力 ・校務の問題点を把握し改善する力
ICT 活用 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善、指導の準備、評価などICTを活用する力 ・児童のICT活用を指導する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルなどを指導する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域に、ICTを使って情報発信する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務にICTを活用する力
特別 支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画を作成する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害についての理解と指導する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携をはかる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内体制の連携を確立する力 ・リソースルームを運営する力
小中 連携 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見通した系統的な指導計画を作成・実施する力 ・小・中の接続を考え、学力の定着・心と体の健康をはかる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互理解を深め、規範意識や生活習慣の確立をはかる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・保護者・地域が一体となった指導体制を確立する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校文化の違いを理解し、各校の特色を伸ばす力
学校 教育 基本 構想	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を向上させる力 ・健やかな体、食の大切さを指導する力 ・国際化、情報化、環境問題など新たな課題を指導する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心を育てる力 ・地域ぐるみで安全・安心な学校づくりを進める力 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校、見える学校づくりを進め、教育力のある学校を築く力 ・人間形成の基礎を培う幼児教育を進める力 ・信頼される教職員を育て、特色ある学校づくりを進める力

3. 教員研修体系について

(1). 作成にあたって留意したこと

- ①. 都教職員研修センター、日野市の教員研修体系（平成20年度）に準拠する。
- ②. 忙しい現場を考慮し、可能な限り研修会の実施回数を抑える。そして、都教育委員会の新しい研修方針（校内OJTガイドライン）を踏まえる。
- ③. 日野市の重点課題（ICT活用教育・特別支援教育・小中連携教育）や、学校教育基本構想を重視する。
- ④. 若手教員の指導力向上。（初任者研、2～3年次研、4年次研）
- ⑤. 全教職員アンケートの結果を考慮して、研修会を設定する。

(2). 研修方針

- ①. 管理職・主幹教諭の学校運営力、組織貢献力、外部との連携・折衝力を向上させる。
- ②. 教員の学習指導力、生活指導力、進路指導力を高め、新たな課題への対応力を向上させる。
- ③. 若手教員の指導力を向上させる。（初任者研、2～3年次研、4年次研）

(3). 平成21年度 日野市教育委員会 教員研修体系

表(2)

方 針

- ◆管理職及び主幹教諭の学校運営力、組織貢献力、外部との連携・折衝力を向上させる。
- ◆教員の学習指導力、生活指導力、進路指導力を高め、新たな課題への対応力を向上させる。
- ◆若手教員の指導力を向上させる。（初任者研修、2・3年次研修、4年次研修）

※※「その他の研修」は、日野市の重点課題、現代的・今日的な課題を中心に設定。

※※「夏季研修会」は、アンケートなどで好評な課題を中心に設定。

※※ 表(2)右側のマル印は、それぞれの研修会で主に取り上げる研修内容（身に付ける力）を示した。

	研 修 会 名	対 象	回 数	(研修会の) 該当する内容			
				学 習 指 導 力	生 活 指 導 力・進 路 指 導 力	外 部 と の 連 携 ・ 折 衝 力	学 校 運 営 力 ・ 組 織 貢 献 力
職 層 に 応 じ た	学校経営研修	新転管理職	1回			○	○
	管理職 ICT 活用教育研修	校長	1回	○			○
	学校組織マネジメントⅠ	校長	2回			○	○
	学校組織マネジメントⅡ	副校長	2回			○	○
	学校組織マネジメントⅢ	主幹教諭	4回	○	○	○	○
	評価者訓練	管理職、候補	2回	○	○	○	○
	教務主任研修会	教務主任	6回	○	○	○	○
	生活指導主任研修会	生活指導主任	6回		○	○	○
	進路指導主任研修会	進路指導主任	2回		○	○	

	研究主任研修会	研究主任	1回	○			
	保健主任研修会	保健主任	1回		○		
	給食主任研修会	給食主任	2回	○		○	
	道徳主任研修会	道徳主任	2回	○	○		
	特別支援教育コーディネータ研修会	特別支援教育コーディネータ	10回	○	○	○	○
	転入教諭、主幹教諭研修会	転入教諭、主幹	3回	○	○	○	○
課題に対応した委員会	人権教育理解推進委員会		3回		○	○	
	I C T活用教育推進委員会		3回	○	○	○	○
	幼小連携教育推進委員会		3回	○	○	○	○
	特別支援学級担任会		5回	○	○	○	○
	司書教諭連絡会		2回	○			○

現職経験に応じた研修	初任者研修（センター研修）	初任者	15回	○	○	○	○
	（宿泊研修）	初任者	2泊	○	○		
	（課題別研修）	初任者	14回	○	○	○	○
	10年経験者研修	10年経験者		○	○	○	○
	授業力向上研修Ⅰ	2・3年次教員	8回	○	○		
	授業力向上研修Ⅱ（授業研究）	4年次教員	2回	○	○		
	ひのっ子教育21開発委員会	主幹教諭、教諭	10回	○			○
その他の研修等	人権教育研修会	希望する教諭、主幹	1回		○		
	心の教育研修会	希望する教諭、主幹	1回		○		
	幼児教育研修会	全幼稚園教諭、希望する教諭、主幹、保育士	5回	○	○	○	○
	情報安全教育研修会	主幹、教諭1名以上	2回		○		○
	教育課題〔評価〕研修会	管理職、主幹、教諭2名以上	1回	○			
	特別支援教育専門委員会	特別支援教育専門委員	9回	○	○	○	○
	進路指導連絡会	中3進路担当教諭・主幹	2回		○	○	
	少人数指導連絡会	少人数担当教諭・主幹	2回	○			
	適応指導教室連絡会	管理職・主幹・教諭	3回	○	○	○	○

	小学校英語活動推進委員会	英語活動担当主幹・教諭	3回	○			
	小学校社会科副読本検討委員会	社会科担当主幹・教諭		○			
	中学校社会科副読本検討委員会	社会科担当主幹・教諭		○			
夏 季 研 修 会	専門研修全体会・講演会	全幼小中主幹・教諭	1回	○	○	○	○
	I C T活用研修会	希望する管理職・主幹・教諭	10日	○	○	○	○
	特別支援教育研修会	同上	2日	○	○	○	○
	郷土教育研修会	同上	1日	○			
	環境教育研修会	同上	1日	○			

4. 若手教員の指導について

初任者から経験5年目までの102名のアンケート結果から言えることは、

- ①教師として自分を向上させるために重視していることは、「授業力」と「生活指導・進路指導力」の向上である。授業と生活指導が学級経営の基盤であることを示している。
- ②実践上の悩みが多いのが、小学校では、「授業がうまくいかない」、「学級経営がうまくいかない」、「いじめやトラブルの処理がうまくいかない」、「保護者の苦情対応に悩んでいる」などが多い。中学校では、「授業、生活指導がうまくいかない」が多くなっている。トータルでは、学習指導、生活指導に関する悩みが多くなっている。初任者研修や校内OJT研修での対応、充実が望まれる。
- ③若手教員が実践上の悩みを抱えた時、職場の上司や同僚が相談にのって解決している。「校内OJT研修」の有効性を証明している。
- ④参加して良かった、役にたったと応えているのが、教科研修、ICT研修、新学習指導要領に関する研修会、郷土教育研修などである。
- ⑤今後計画してほしい研修会は、「教科の専門性や授業力を高める研修会」、「特別支援教育に関する研修会」が圧倒的に多かった。

アンケートを通して言えることは、若い先生方は教師としての指導力をはやく身につけたいという意欲の強さを感じる。専門性を高める研修、生活指導、学級経営力を高める研修を多く望んでいることからわかる。

「研修会に参加すれば、いろいろなことが学べる、どんな研修会にも学ぶべきことがたくさんあるので、どんどん参加したい」と旺盛な研修意欲を述べている。若手教員、特に、初任者は研修会のために学校を空けるのはひと苦労である。校内OJT研修の活性化をはかり、OJT研修の有効性を発揮して、若手教員への援助が大事になっている。

V. 資料 アンケートの結果 (平成20年9月実施) 回収率 485/642 (76%)

問1 あなたが教師として成長するために重視していることを3つ上げてください。

①	授業力	388名	80%
②	学級経営	278名	57%
③	児童理解 ・ 児童との人間関係	242名	49%

④	生活指導力	130名	26%
⑤	専門性を高める研修	96名	19%

問2 あなたが教師になって悩んだこと、または現在悩んでいることは何ですか。

①	授業がうまくいかない	188名	38%
②	保護者との苦情対応	169名	43%
③	児童のいじめやトラブル	139名	28%
④	学級事務や校務分掌の処理	109名	22%
⑤	学級経営がうまくいかない	105名	21%
⑥	ある児童の指導で行き詰まっている	101名	20%

問3 問2の悩みをどのように解決しましたか。

①	職場の同僚に相談した	258名	53%
②	職場の上司に相談した	191名	39%
③	本などを読んで自分で解決した	120名	24%
④	友人や職場外の人に相談した	109名	22%
⑤	研修会に参加して解決した	86名	17%
⑥	カウンセラー・専門機関に相談した	38名	7%

問4 参加して役に立った研修会の内容

- (1). 教科指導の研修会が好評であった。教科の専門性を高めたい、授業力を高めたいという教師の基本的な願い、要望に応じている研修会が求められている。
- (2). 実習・実技などの体験的な研修やICT活用教育に関わる研修が好評であった。「新しい知識・技能を修得できた」「授業にすぐ役に立った」という理由が多かった。
- (3). 特別支援教育に関わる研修会は、特別支援学級や通級学級の担任だけでなく、通常学級の担任からも、研修会の要望は高くなっている。児童理解、個別指導、校内体制の確立など基本的なことから専門的なことまで広範囲にわたっている。系統的な指導計画にもとづいた研修会を望んでいる。
- (4). 夏季研修（全体会）は、その道の優れた講師から専門的な知識を学び、知的好奇心を刺激され毎年好評である。

問5 今後、どのような研修会を計画してほしいか。

- ・「武道」の研修会
- ・保護者対応の研修会
- ・理科の教材教具の基本的な取り扱い、実験・飼育などの指導について
- ・日野市の地域教材を扱った授業
- ・新学習指導要領、小学校英語活動研修会
- ・体育、特に「表現運動」の実技研修
- ・通常学級担任向けの特別支援教育研修会
- ・「校内OJT研修」を推進する担当者会・・・など

2 教育経営係

ICTに関する研究（ICT活用研究委員会）

はじめに

日野市・日野市教育委員会は、数年来、特別支援教育、小中連携教育と共にICT活用教育を重点にあげて取り組んできた。また、市として「頑張る地方応援プログラム」では、「日野市ICT活用教育推進プロジェクト」を継続し、目的として「日本一のICT活用教育を推進し、わかりやすい授業、および校務の効率化を図る」としている。そのため、学校においては、ほぼインフラの整備を終え、授業のICT活用や教員の研修を進める「ICT活用推進室」が設置され、メディアコーディネータ制度も定着してきた。まさに、ICT活用の日常化が進行している。日野市は学校だけではなく日野市役所としてもICT活用を進めていたが、その成果として、昨年9月、日本社会情報学会「社会情報システム貢献賞」の受賞の栄誉を受けた。

本年度はこれらのICT機器やシステムの一層の活用を図るために、「定着と活用の年」とし、ICT活用推進のキーパーソンの育成のための実践研究、マーク審査制度による学校の力量の向上を目指した。

1. 本年度の研究の目的

本研究委員会の目的は、日野市教育委員会の重点目標である「確かな学力の向上の保障」をめざし、日野市の学校教育におけるICTを活用した授業研究、及び研修事業を進めるとともにその環境整備に協力することにある。本年度は、特にICTの「定着と活用」を重点とし、教育活動への活用実践を主な研究内容とした。

(2) 組織・運営方法

- 組織：「ICT活用研究委員会」 学識経験者、小中学校校長会ICT担当校長、ICTモデル校、活用教育実践をもつ教員、ICT活用教育推進室、市教委関係部署課長等、指導主事、教育センター所員等で構成し推進する。
- ◆ICT活用実践部会：信州大学 東原義訓教授他大学研究者の指導の下で実践的研究を行う。
 - A班 インタラクティブスタディの教師用評価機能の活用（算数）
 - B班 カブリ3D授業レシピの活用（数学）
 - C班 スタディノートを活用したバタフライマップ法（国語）
- ◆環境整備部会：今後のICTの基盤整備の計画の作成、地上波デジタルテレビ放送受信とデジタルコンテンツの活用、及び日野市のICTマーク審査の在り方の検討を行う。
- ◆教員研修部会：教員のICT活用の指導力向上をめざし、夏季研修講座を計画実施
- 運営方法：ICT活用教育研究委員会のもと、各部は相互に連携して研究にあたる。特に、実践活用部会は、パナソニック教育財団の研究委託により、信州大学 東原義訓教授の指導のもとで先進的な実践研究を行ってきた。教育センター担当所員は、信州大学 東原義訓教授、ICT活用教育推進室と連絡をとりながら、ICT活用実践部会及び教員研修部会の全体的な連絡調整を行ってきた。

—各部会の活動と成果—

I. ICT活用実践部会

信州大学教育学部と東京都日野市教育委員会（日野市立教育センター調査研究事業「ICT活用研究委員会」のICT活用実践部会）は、パナソニック教育財団「役員推薦による研究委託」の支援のもと、「ICT活用指導力のレベルを向上させるICT活用実践事例Webサイトの構築（代表：信州大学教授 東原義訓）」のプロジェクトとの連携で、教科におけるICTの活用について実践研究を深めた。

ICT活用実践部会（数学・国語・算数部会）は、教科教育におけるICT活用に関する大学での最先端の研究成果を実践の場で活かした授業研究を公開した。

「教科を深めるICT活用」授業研究会実施

1. 数学部会

- ・平成21年2月4日（水）日野市立日野第三中学校（授業クラス 1年）
- ・研究テーマ 「3次元動的幾何ソフトで学ぶ空間図形」
- ・教科・内容 数学・空間図形
- ・使用ソフト Cabri 3D, 授業のレシピア集(ENJOY MATHEMATICS in 3D), パワーポイント
- ・使用機器 先生用PC, 生徒用PC
- ・ICT利用目的 Cabri 3Dを用いると、3次元空間上でマウス操作によって図形を自由に回転させてあらゆる角度からその性質を観察することができる。平面をある条件下で移動させて軌跡を残したり、動的に多面体の切断面を観察することも可能である。
空間図形を自分で操作して観察し、どのようなことがいえるかを考える学習活動を展開する。
参考：ENJOY MATHEMATICS in 3D (<http://www.schoolmath3d.org/>)

<数学科学習指導案より一部抜粋>

(1) 単元名 第6章 空間図形 「面を動かしてできる立体」

(2) 本時の目標

柱体、錐体などの空間図形が平面図形の運動によって構成されているとみることができる。

【評価規準：数学的な見方や考え方】

(3) 本時の学習活動

空間図形 「3次元動的幾何ソフトで学ぶ空間図形」

Cabri 3D を用いて平面を平行に移動させたり、回転させたりし、その軌跡がどのような立体（空間図形）を作り出すかを予想し、画面上で操作をして観察する。また、平行移動させて出来た立体の特徴、回転移動した立体の特徴を、出来た立体を自由に回転させてあらゆる角度から観察し発見する学習活動をおこなう。その活動の中で立体を構成する方法について視野を広げていく。

(4) 生徒へ配布したプリントの内容の例（予測させる）

①三角形を面に垂直に動かしてできる立体

予想（見取り図） 実際（名称）

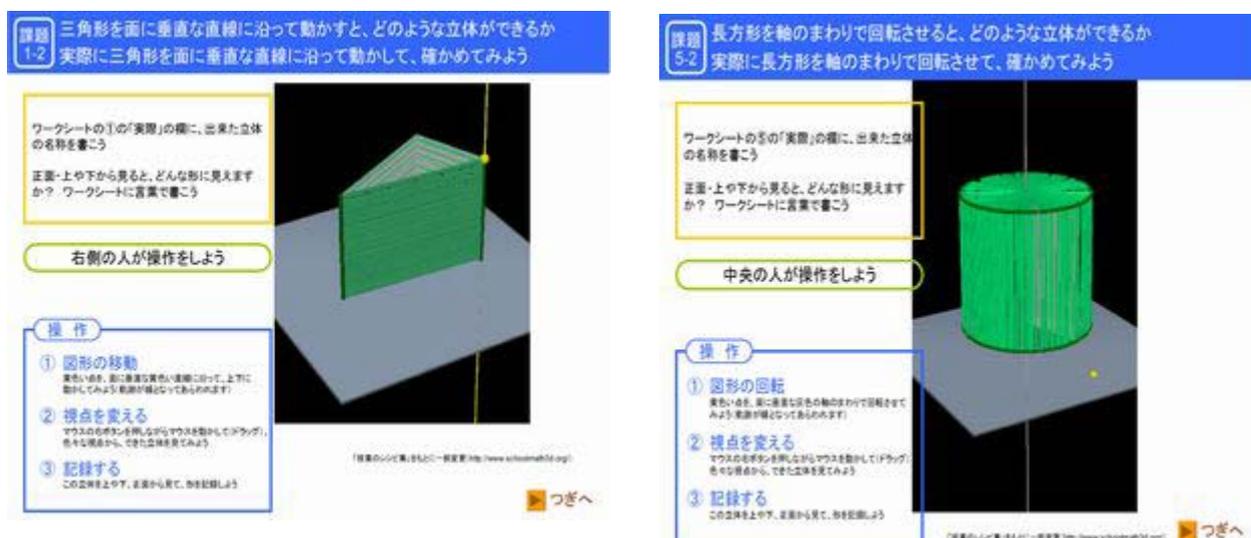
正面から見ると？（軸を左に）

上や下から見ると？（横の側面の形は？）

(5) どのように授業を展開したか ～ 指導上の留意点 ～

- ①生徒によるパソコンの操作、納得いくまで操作できる時間の保証
- ②推測、検証などの数学的活動を通して、理解を深めさせること
- ③教科（数学）としての内容を深めること

(6) 授業で提示した Cabri 3D パワーポイントの一例と生徒の反応



①できる立体を想像する→確かめる→いろいろな方向から見ることで発見する。

この段階が生徒の理解を深めたと感じる。

②操作を全員がすることで、興味関心を持たせることにも成功した。

これを回転させると何になるかな？と自分で考え始める生徒もいた。

③回転体は上や下から見ると円になるということがわかり、底面に平行な面で切ったときの切り口が円になることにも気づく生徒が出た。

④できる生徒は本当にそうなるのか確かめたい。分からない生徒は見て確かめたい。

どの生徒にとっても効果はあったと感じた。

⑤この次の授業で、平行移動させたあとにできる立体、回転させてできる立体について生徒に出題したところ9割以上の生徒が答えることができていた。

⑥図形が苦手と空間の把握が難しいとされた生徒も『回転させると何が見えたっけ？』という問いかけで『あっ、円だ』と気づき、すぐに自分で答えを導き出せた。

(7) 成果と課題

- ①立体に対する意識の変化
- ②見たものは信じることができる
- ③具現から抽象化への手助け
- ④立体を作成するには、Cabri 3D に精通する必要性
- ⑤生徒の操作範囲にある制限をかけることの必要性

2. 国語部会

- ・平成21年2月10日（火）日野市立日野第二小学校（授業クラス 6年）
- ・研究テーマ 「バタフライ・マップ法で育てる論理的思考力・表現力」
- ・教科・内容 国語・優れた表現効果を読み取ろう
- ・使用ソフト スタディノート・ポスター機能、バタフライ・マップ法
- ・使用機器 先生用PC、生徒用PC、スタディノートサーバ

- ・ ICT利用目的 論理的思考力を育てる本来のバタフライ・マップ法では紙のマップ上に紙の付箋を配置する。スタディノートのポスター機能を活用すると、マップの共有化、制作過程の記録、クラスを越えたマップ作成と意見のやり取りが可能となる。
ここでは、根拠や理由を明確にしながら意見を組み立てたり、自分と他者の意見を比較検討したりする活動で利用する。
参考：藤森裕治著、バタフライ・マップ法、東洋館出版社、2007

<国語科学習指導案より一部抜粋>

- (1) 単元名 優れた表現効果を読み取ろう
- (2) 教材名 「きつねの窓」安房直子
- (3) 単元目標
優れた文章の表現効果に触れ、登場人物や場面の様子を具体的に思い浮かべながら、物語の世界を読み味わう。
- (4) 評価基準
○場面の様子を想像しながら進んで読もうとしている。(関心・意欲・態度)
◎優れた表現に着目したり、その効果を考えたりしながら読んでいる。(読む)
○想像したことや自分の考えを発表したり話し合ったりしている。(話す・聞く)
- (5) バタフライ・マップ法による学習(藤森裕治 著
「バタフライ・マップ法」東洋館出版社)

論理力が鍛えられる

バタフライ・マップ法を用いることによって、自分の意見を組み立てる際に、根拠と説明という視点をしっかり意識して考えることができる。

要約力が鍛えられる

付箋に考えを書き込んだり、情報の必要性を検討し不要な意見(付箋)は取り除いたりする活動を通して、意見を簡潔に整理する力が身に付く。

伝える力が伸びる

思考の流れを一枚のマップに集約するので、口頭による説明を順序よく行うことができ、聞き手に分かりやすい発表ができる。

- (6) ICT の活用
 - ①スタディーノートのポスター機能を活用し、複数の意見を集約していく。他者の意見と自分の意見を比較しながら、新しい読みを生み出していく。
 - ②集約した資料をプロジェクターに映し出しながら、自分の考えを発表する。

(7) 本時の指導計画(11/11時間目)

- [目標] ○優れた表現に着目したり、その効果を考えたりしながら読んでいる。(読む)
○想像したことや自分の考えを発表したり話し合ったりしている。(話す・聞く)

(8) 本時の評価

- 優れた表現に着目したり、その効果を考えたりしながら読むことができたか。
○想像したことや自分の考えを発表したり話し合ったりすることができたか。

(9) 授業の様子（教育センター調査研究事業発表会平成21年2月19日プレゼン資料より）



(10) バタフライ・マップ法による学習の結果

- ①初発の感想では、主人公は「楽しい気持ちだと思う」としか表現できなかった児童が、授業の最後（解決の羽）には、**上記資料（◆資料）**のように豊かな意見を書くことができていた。子どもたちは、深読みする面白さを味わっていたと思う。
- ②ICTを活用したバタフライ・マップ法の授業では、パソコン画面を指差しながら、積極的に熱く自分の読みを主張し合う子どもたちの姿が見られた。
それは、スタディノートのポスター機能を用いたことで、意見を共有し、新しく組み立てるという学習の場を作ることができたからだと思う。

解説参考資料：スタディノートのポスター機能を活用したバタフライ・マップ作成の概要

- ① どの羽に置くのかを考えて、対応する色の付箋に書き込む。
 - ・色に注意して、自分に割り当てられた場所の付箋を選択し、書き込んでから、羽に移動させる。
 - ・同じグループの他の人が別のコンピュータから書き込んでから羽に移動させる。
 - ・他の人の付箋と重ならないように位置を調整する。
- ②グループとしてのバタフライ・マップを、話し合いながら完成させていく。
- ③完成したら、他のグループの人からも見られるようにバタフライ・マップを「公開」モードにする。
- ④他のグループのバタフライ・マップを見て、意見交換をしたり、自分たちのバタフライ・マップに修正を加える活動を行なう。

3. 算数部会

- ・平成21年2月10日（火）日野市立日野第二小学校（授業クラス 5年）
- ・研究テーマ 「学習記録に基づく個に応じた指導」
- ・教科・内容 算数・比べ方を考えよう
- ・使用ソフト インタラクティブスタディ, Study21「割合」
- ・使用機器 先生用PC, 生徒用PC, スタディノートサーバ
- ・ICT利用目的 単元の終わりの2時間にe-Learning（インタラクティブスタディ）を活用し、診断補充教材により学習の個別化を図る。
システムから得られる前時の学習記録、評価情報を活用し、どの児童にどのような指導が必要であるのかを判断して適切な個別指導を行う。T・T（Team Teaching）を実施するなかで、この指導法が他の教員にも広がること

を期待している。

参考：インタラクティブスタディ Q&A (<http://www.hino-kyo.ed.jp/ict-edu/>)

<算数科学習指導案より一部抜粋>

(1) 単元名 「比べ方を考えよう～百分率とグラフ～」

(2) 単元の目標

①百分率の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

②目的に応じて資料を分類整理し、それを円グラフ、帯グラフを用いて表すことができるようにする。

(3) 単元指導計画の概要 (全13時間)

割合と百分率 (3時間)、百分率の問題 (4時間)、割合を表すグラフ (4時間)

まとめ (2時間) → 本時2時間目

教材のめあて 割合を小数や百分率で表したり、グラフから読み取ったりすることができる。

目標 1 割合の必要性を理解している。

目標 2 割合を小数で求めることができる。

目標 3 1以下の小数で表された割合を百分率で表すことができる。(小数第2位)

目標 4 1以下の小数で表された割合を百分率で表すことができる。(小数第3位)

目標 5 1を超える小数で表された割合を百分率で表すことができる。

目標 6 100以下の百分率で表された割合を小数で表すことができる。

目標 7 100を超える百分率で表された割合を小数で表すことができる。

目標 8 割合を100以下の百分率で求める式を立てることができる。

目標 9 割合を100を超える百分率で求める式を立てることができる。

目標 10 百分率で表された割合に当たる量(比べる量)を求める式を立てることができる。

目標 11 比べる量の百分率で表された割合から基にする量を求める式を立てることができる。

目標 12 帯グラフから百分率で表された割合を読み取ることができる。

目標 13 円グラフから百分率で表された割合を読み取ることができる。

33	de 式を立てる	25	d 式を立てる	17	d 式を立てる	9	abd 式を立てる	1	abcd 式を立てる
34	de 式を立てる	26	abcd 式を立てる	18	d 式を立てる	10	cde 式を立てる	2	abcd 式を立てる
35	de 式を立てる	27	abcd 式を立てる	19	d 式を立てる	11	e	3	e
36	de 式を立てる	28	* 支援を要する	20	abcd 式を立てる	12	発展的な問題	4	abcd 式を立てる
37	d 式を立てる	29	d 式を立てる	21	de 式を立てる	13	de 式を立てる	5	cde 式を立てる
個別の課題 (学習記録から)		30	de 式を立てる	22	de 式を立てる	14	d	6	e
		31	de	23	*	15	d	7	d

	式を立てる	支援を要する	式を立てる	式を立てる
32	de 式を立てる	24 * 前時欠席	16 de 式を立てる	8 d 式を立てる

	つまづきのパターン (応答カテゴリ)	本時の指導のねらい
a	割合を、もとにする量÷くらべられる量で求めてしまう	「比べられる量÷基にする量＝割合」であることを理解して問題が解けるようにする。
	割合を、もとにする量×くらべられる量で求めてしまう	
b	くらべられる量を、もとにする量÷割合で求めてしまう	「基にする量×割合＝割合に当たる量（比べる量）」であることを理解して問題が解けるようにする。
	くらべられる量を、割合÷もとにする量で求めてしまう	
c	もとにする量を、くらべられる量×割合で求めてしまう	「比べられる量÷割合＝基にする量」であることを理解して問題が解けるようにする。
	もとにする量を、割合÷くらべられる量で求めてしまう	
d	%で表された割合を小数になおさずに計算してしまう	小数で表された割合は、基にする量を1としたときの割合を表し、百分率は、基にする量を100としたときの割合を表していることを理解して、「小数×100＝%」などの換算ができるようにする。
	小数の割合を求めるときに、%の割合を求めてしまう	
	%の割合を求めるときに、小数の割合を求めてしまう	
e	帯グラフや円グラフから百分率で表された割合を読み取るときに目盛りを読み間違ってしまう	帯グラフや円グラフから百分率で表された割合を読み取ることができるようにする。

(4) 評価情報の活かし方

(参考 制作：ひのっ子21開発委員会（小学校部会）より)

インタラクティブスタディQ&Aは、日野市教育委員会 ICT活用教育推進室 (<http://www.hino-tky.ed.jp/ict-edu/>) より日野市の先生方に情報を提供し、活用の推進をめざしている。

◆1. インタラクティブスタディに慣れないころの学習中の理解状態の見方 ◆2. ヒストグラム ◆3. 2値変数状態 ◆4 観点別表示 ◆5 学習応答記録CSV等の項目で詳しく解説されている。



Ⅱ. 教員研修部会

教員のICT活用指導力の向上を目指して以下のような研修を実施した。

1. **管理職ICT活用研修** 5月に実施 講師 信州大学 東原義訓教授
 - (1) 校務支援システムの積極的な活用について
 - ・新たにスタートする文書管理機能について
 - ・校務の情報化、校務支援システムの活用についてのコンテンツの紹介
 - (2) 教員のICT活用指導力の向上について
 - ・日野市教員のICT活用指導力の実態のまとめ
 - ・学校ごとの結果の分析、グループでの話し合いによる対策の考察と発表
 - (3) テレビ会議システムによる、「信州大学附属松本中学校の公開授業」視聴
2. **夏季ICT活用研修** 7・8月に実施 20回実施し、260名以上が参加した。

ICT活用指導力基準	研修会名	内 容	実施日
A-3、E-1	スキルアップ	ICT活用の基礎能力の向上	7月24日
B-1,2,3,4	授業中の提示	e-黒板や書画カメラ等を活用した授業	7月25日 8月20日
B-1,2,3,4 C-1,4	ひのっ子教育開発委員会・セナー合同研修	理科ネットワークのデジタル教材を活用した授業	7月28日
C-4(A-4)	児童の活用(インタラクティブスタディ)	基礎・基本の完全習得ソフトを活用した指導方法を学ぶ	7月30日 8月22日
A-1,4 C-2,3 B-1,2,3,4	ICT活用授業相談	先生方の授業ニーズに合わせたICT活用授業の相談に応じ授業案作成する	7月31日
C-2,3	児童・生徒の活用(スタディノート)	「スタディノート」を活用して授業を組み立てる。	8月1日 8月25日
D-1,2,3,4	情報安全教育の実際	「ネットモラル」のコンテンツを活用した授業	8月4日 8月21日
C-2,3	児童・生徒の活用・授業中の提示	パワーポイントを活用して表現力を高める授業を組み立てる、他	8月5日
B-1,2,3,4 C-1,4	ひのっ子教育21開発委員会	理科ネットワークのデジタル活用した、楽しく魅力的な授業の研究	8月 6,7,8日
C-3 E-1	デジタルカメラ活用	授業や学校Webサイトに画像を効果的に活用する方法	8月19日
A-1,2 C-1	インターネット活用	Web上のコンテンツの検索し、効果的な活用法を考え、授業を組み立てる	8月18日
E-2	校務(CMS発信)	学校のニーズに応じた機能について学ぶ	8月26日

3. 情報安全教育研修会

5月 講演テーマ 「ネットいじめの実態とその対処方法」

講師 全国Webカウンセリング協議会理事長 安川雅史先生

12月 講演テーマ 「ケータイ時代のメディアリテラシー教育」

講師 千葉大学教育学部准教授 藤川大祐先生

4. 校内研修等

各学校より随時、ICT活用教育推進室のwebサイトメニューなどへの申し込みによる要請に応じて、メディアコーディネータが随時派遣され、ICTを活用した授業の質の向上に寄与してきた(2月

III. 環境整備策定部会

1. ICTマーク審査制度の趣旨

本制度の趣旨は、各校においてICT活用の「定着と活用」のために「授業活用」、「校務活用」「情報セキュリティ」の3つが確実に行われているか、ICTの「総合的な活用」の状況を外部から評価し、一定の水準の学校にはマークによる認証することにより学校への支援を行うことにある。また、ICT機器の環境整備・維持への保証として、ICTマーク審査制度を検討・実施した。

2. 「情報セキュリティ」マーク審査制度実施の概要

市内外でセキュリティ事故が多発し対応が求められたこともあり、まず情報セキュリティの審査を行うことになった。

①目的 日野市立学校情報セキュリティ対策基準を根拠とする制度であり、セキュリティポリシーの遵守状況、及びその有用性を検証するため。

②時期 平成20年11月20日～12月2日

③方法 ICT活用教育推進室職員、外部専門業者による現場確認、聞き取り

⑤主な審査内容 セキュリティポリシーの理解、ICTカードの管理、私物PCや記録媒体の管理、共有パソコンの整理、独自ネットワークの排除 他全10項目



3. 審査の結果

現場指導の専門家(外部委託業者)から:「3年間で全体的にセキュリティ意識が高まってきたことを感じる。積極的にICT活用を図っている学校ほどよく伸びている。使う場面が増えるにつれ、危ない面にも気づくのだと思われる。反面セキュリティ面で大きな課題を抱えている学校もある。

審査結果:セキュリティ部門審査マーク付与校(審査項目10項目すべてに基準を満たしている学校) 12月、学校情報セキュリティ対策委員会にて、5校を認定する。

4. ICTマーク審査制度による認証の効果

①学校全体のICT活用能力の向上の指標の設定を得た → 学校経営の目標へ

②保護者・地域住民の信頼の獲得

5. ICTマーク審査の全視点の実施

2月以降、「授業への活用」、「校務への活用」の審査についても進めている。

ICT審査(授業での活用部門)

項番	確認項目	実施状況の評価(目標達成率)
1	〈活用の範囲と頻度〉 授業でのICTの活用を計画し、実践している。	5 ほぼすべての学級(小学校)または教科(中学校)で、ICTを活用し
		4 ほぼすべての学級(小学校)または教科(中学校)で、ICTを活用し
		3 半数以上の学級(小学校)または教科(中学校)で、ICTを活用した
		2 いくつかの学級(小学校)または教科(中学校)で、ICTを活用した程
		1 実施されていない。
2	〈効果的な活用(ICT活用指導力B)〉 教員がICTを活用して教科等の指導を行っている。 ・デジタル黒板カメラの活用 ・デジタル教科書の活用	5 ほぼすべての教員が、様々なICTの活用法によって、効果的な指
		4 半数以上の教員が、様々なICTの活用法によって、効果的な指導
		3 半数以上の教員が、なんらかのICTの活用法によって、効果的な指

おわりに

当研究委員会は、日野市の ICT 活用教育を推進し、4年目のおわりとなった。

「ICT活用研究委員会」では、日野市の特徴である大学の専門家の助言を随時受けられる体制は、同委員会が教育CIO機能を実現してきた。

特に、本年度のICT活用実践部会の実践は、小中学校、教育委員会、大学が協同研究した成果であり、その目的は、①大学での研究成果を実践の場で活かすこと

②教科の専門家とICT活用指導の専門家がチームになって、授業者とともに教科を深めるためにICTを活用した授業を創っていくこと

③それらの成果を広く一般に普及できるように提供する

カブリ3Dの活用は、中学校だけでなく小学校でも活用して成果をあげたことを研究会や教育センター調査発表会で紹介した。

ICT活用実践部会のメンバーがICT活用教育のキーパーソンとなり、「教科を深めるICT活用」がどの学校でも展開されることが望まれる。

平成20年度 ICT活用研究委員会 研究委員

学識経験者	東原 義訓	信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授
委員長	中島 和夫	日野市立旭が丘小学校校長
副委員長	中野 秀樹	日野市立七生中学校校長
<ICT活用実践部会：A部会	インタラクティブスタディの教師用評価機能の活用（算数）>	
指導講師	東原 義訓	信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授
委員	三橋 一徹	日野第一小学校教諭 青木 裕子 日野第二小学校教諭
	菊川 民雄	潤徳小学校非常勤教員 佐野 敏孝 平山小学校教諭
	椎野 祐史	日野第八小学校教諭 木部 美行 南平小学校教諭
<ICT活用実践部会：B部会	カブリ3D授業レシピの活用(数学)>	
指導講師	東原 義訓	信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授
	茅野 公穂	国土舘大学体育学部准教授
委員	今川 美香	日野第三中学校教諭 安納 宏明 平山中学校教諭
	関 隆史	平山中学校教諭 古川 泰昭 平山中学校教諭
<ICT活用実践部会：C部会	スタディノートを活用したバタフライ/マップ法（国語）>	
指導講師	東原 義訓	信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授
	藤森 裕治	信州大学教育学部教授
委員	枝村 晶子	日野第四中学校副校長 関口 佳美 日野第二小学校教諭
	高橋 悦子	日野第三小学校教諭 西沢 庸 潤徳小学校教諭
	郡司 実	日野市立滝合小学校教諭 中山 昌之 日野第四中学校教諭
	對馬 真美	大坂上中学校教諭 水野 雄二 大坂上中学校教諭
	谷藤 祐子	大坂上中学校教諭 水巻 英司 大坂上中学校教諭
	池本 ユウ子	平山中学校教諭

その他委員（教員研修部会、環境整備策定部会）

日野市ICT活用教育推進室、市教委関係部署課長等、指導主事、教育センター所員等で構成

3 教科等教育係 「理科教育推進研究」

平成20年度 日野市立教育センター 理科教育推進研究委員会

I. 研究テーマ

「魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上」

II. 今、なぜ教育センターでの理科教育研究が必要か（研究の主旨）

*1：日野市の進めているICT活用教育を理科授業の改善に役立てる

*2：理科デジタル教材の活用化（JSTの研究）の研究を推進する

*3：現在、理数科充実が課題となっており、平成21年度全国理科教育研究協議会全国大会東京大会が開催予定。日野第四小学校は、会場校として、デジタル教材部会の推進校。

これに併せ会場地区となる日野市の理科教育の質の向上が喫緊の課題となっている。

※ これらを総合的に捉え、ひのっ子の理科教育の学力向上に繋げていくためには、教育センターとして全体を見通して具体的に研究を進め、課題を解決していくことが重要である。

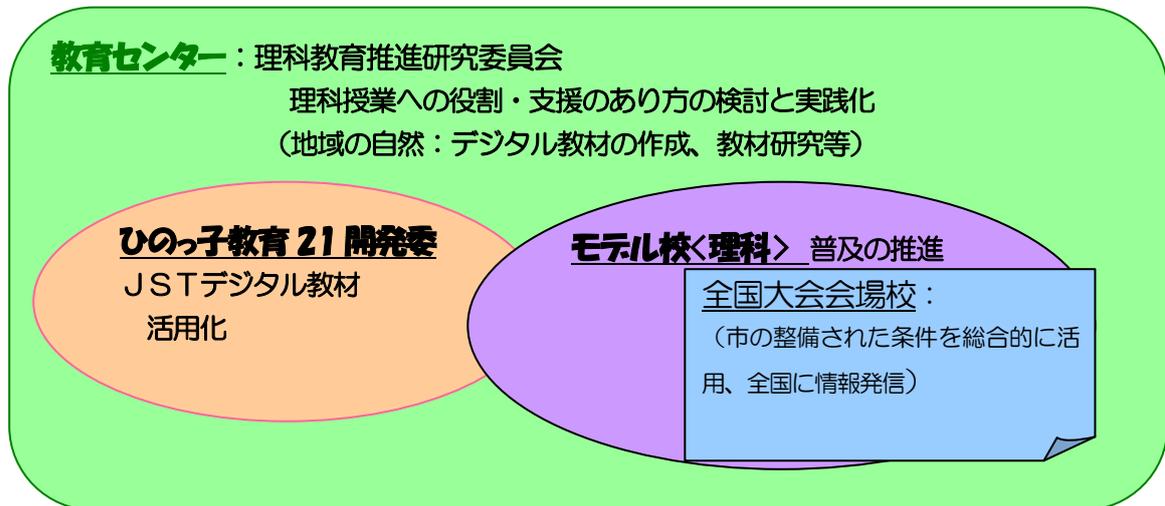
III. 目的

誰でも好きになる魅力ある理科授業のあり方を構築し、ひのっ子の理科の基礎学力の向上を図るために、日野市の理科教育の質的改善を図る教育センターの役割・支援のあり方を明確にする。

IV. 具体的な研究の進め方

1. 研究の組み立て

理科教育推進研究委員会の中にひのっ子教育21開発委員会及びモデル校（兼：全国大会会場校）を包含した組織とし、各組織が各目標に向かって研究を進め、理科教育推進研究委員会で協議し、相互に関連づけながら研究を進める。



2. 理科教育推進研究委員会

委員長 太田由紀夫 日野第四小学校 校長 (JSTモデル校、理科全国大会会場校)

副委員長 山田 悟志 日野第二中学校 校長 (ひのっ子教育21開発委員会委員長)

委員 佐島 規 七生緑小学校 校長 (ひのっ子教育21開発委員会委員長)

宮崎 芳子 潤徳小学校 校長 (JSTモデル校)

島崎 忠志	日野第七小学校校長	(実験観察融合型デジタル教材活用研究校)
木下 直人	仲田小学校 副校長	(ひのっ子教育21 開発委員会小学校部会副部長)
渡邊 俊哉	大坂上中学校 副校長	(ひのっ子教育21 開発委員会中学校部会副部長)
ト部 敦彦	日野第一小学校 主幹	(ひのっ子教育21 開発委員会)
櫻井 匡佐	七生中学校 主幹	(ひのっ子教育21 開発委員会)
辰巳 恵子	日野第三中学校 主幹	(ひのっ子教育21 開発委員会)
古田 俊光	日野第四中学校 主幹	(ひのっ子教育21 開発委員会)
行富健一郎	平山中学校 主幹	(ひのっ子教育21 開発委員会)
統括指導主事	五十嵐俊子	日野市教育委員会 ICT活用教育推進室長
指導主事	鈴木 基	日野市教育委員会教育部学校課
運営担当	大澤 真人	日野市立教育センター 所員
	高橋 茂子	日野市立教育センター 所員

V. 研究の具体的な内容 ～ひのっ子の学習意欲等と指導する教員の実態と課題～

1. ひのっ子の理科に対する興味関心及び教科理科の学力の状況

(1) 理科の勉強が好きなひのっ子

	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
全国調査	74%	64%	61%	59%	65%
日野市	(調査せず)	93%	90%	72%	74%

《日野市のデータ：モデル校等デジタル教材を用いての学習後の調査データ（各一学級）》

文部科学省「小・中教育課程実施状況調査」（平成15年度）〈教科の勉強が好きという割合〉の中で、理科の勉強が好きな割合は、小学校第5学年では、約75%、いちばん少ない中学校第二学年でも約60%が興味・関心を持っている。（以下文部科学省、JSTデータグラフ省略）

(2) 学力について

理科の国際的な学力調査では、我が国の理科の学力は、十分とは言えない。PISA2006学力調査（2006は、科学的リテラシーに重点を於いて実施）の結果から、我が国の児童生徒の科学的に理解し説明する力が不十分であり、関心・意欲等についてもOECD加盟国の平均よりも大きく下まわっているという事実からも、我が国の児童生徒の理科の学力低下が明らかになり、学校における理科教育振興の必要性が高まっている。

ひのっ子の学力は、これまで実施されたPISA2006学力調査結果と同様の傾向にあると受け止められる。

2. 「ひのっ子」を指導する教員の実態と楽しく理科授業を実践する上での課題

ひのっ子の理科の学力向上を図るためには、指導に当たる教員の実態を把握する必要がある、市内の小学校JSTモデル校3校の教員及び進学先中学校の理科担当教員の意識調査等を行った。

(1) 市内小学校JSTモデル校教員の理科についての得手・不得手（モデル校3校、総数58名）

（経験年数10年未満：約60%、20年未満：約14%、20年以上：約26%）

①教科：理科について（複数回答可）

好きな教科・得意な教科である 18%

好きでない・苦手・不得手教科である 67%

②「教員の得意科目」（JST「理科大好きモデル地域事業事前アンケート」より平成17年度実施）

JST「理数大好きモデル地域事業事前アンケート」（平成17年度）によると、小学校では、6

0%以上の教員が、「理科の授業が苦手である」と回答している。

(2)「ひのっ子」を指導する教員が感じる理科の授業を行うための課題について

① 困っていること、とても大変だと感じていること（上位6位まで）

実験や観察の準備・片づけに手間がかかる（53%）

教材研究に時間がかかる（31%）

教材購入等の予算が少ない（22%）

指導に使える教材破損・所在不明などを含めた教材が足りない（20%）

生き物を飼う自信がない（19%）

実験に失敗するなど、教科書通りに教えられない（12%）

② どんな条件が整えば自分で指導がしやすくなるか（上位5位まで）

教材の準備や片づけを（システムとして）やってもらえれば良い（38%）

自信を持って指導できるよう教材の相談や助言をしてくれる指導者が欲しい（35%）

準備が大変な教材が容易に入手出来ると良い（28%）

実際の授業面で指導の支援員がいると良い（19%）

地域教材の所在がわかりやすくなっていると良い（10%）

理科授業実施上の課題として、「実験・準備に時間がかかる」「実験に失敗するなど教科書通りに教えられない」など教材研究及び教材準備の時間が確保できにくいと共に教員自身に教科理科の指導力自信もてないという傾向が見られる。

4. 教員の現状と問題点

日野市モデル校の調査及びJSTの調査は、前記3のような結果である。特に「好きでない、苦手である、不得手教科である」という教員の意識は、指導に当たっての諸準備（レディネス）が十分に出来ていないと受け止められる。従って自信が持てにくい状況の中で日々の授業を進めているのが現状である。このため、自信を持って指導が出来る条件を整えることが重要になる。

VI. これらの課題・問題点を解決するために、今年度研究的に進めてきた具体的な実践

1. はじめに：これまでの日野市の理科（科学）教育についての取り組み事例

日野市では、科学センターの実施に当たっては、旧教職員研究室の担当職員（教育管理職出身の理科に経験豊富な嘱託所員）が、科学教室の運営を進めてきた。科学センターで児童への指導は、各学校の教員が指導員として分担して担当し、土曜日の午後の実験観察等の活動を実施し、日野市の子どもたちの科学教育のレベルアップを図ってきた。この理科（科学）教育充実のため日野第五小学校などに理科実験教室を増設するなどの工夫が図られてきていた。様々な状況の変化により、この活動は社会教育に移管され、各学校の理科授業実践の上で、現在ではこの活動は、ほとんど機能していない。

2. 今年度の具体的な実践例

① 理科授業支援員の活動から

文部科学省の施策として進められている「理科授業支援員」が本市でも少数の人員が配置された。理科授業支援員が配置校で単元毎に授業学年の教員と事前の打ち合わせ・準備・授業中の支援・授業後の片付け等を行い、配置の学校では、「理科授業支援員がいることによって、とても充実した授

業が出来た」、「安心して、自信を持って授業が出来た」等の声が聞こえてきており、理科授業支援員の配置は有効であるといえる。指導終了後の話し合いの中で、ある教員から、「もし、理科授業支援員が来てくれなかったら、(個別の実験観察出来る準備等が出来ないので)、教師実験で済まそうと思っていた。」との本音も飛びだしている。

しかし、支援員の配置は、今年度は全校に配置したが現状では適任者が不足し、各校で人員の確保等が出来ず、このシステムを十分に生かし切れていないなど、学校により大きな差がある。

② 教材実技研修会 ～実技研修会の事例から～

学校の要望に応じて、夏期休業中に理科の実技研修を実施した事例。基本的な実験器具の取り扱いを対象に研修した。参加の教員は、「なるほど」、「理由がよくわかった」等の発言と共に、楽しく実験し、充実した研修会が持てた。終了後の感想の中で、理科を専修してきた若手 教員から、「ピーカーの洗い方も知りませんでした」との声も聞こえてきている。このことから、魅力ある理科授業の展開には、教員が自信を持って指導出来る研修が大事だということが見えてくる。

③ 先輩から受け継ぐ：示範授業の展開と教材研究研修会を実施：第4学年 光電池の学習

授業者：元全国理科教育研究協議会会長、日野市教育委員会委員長職務代理者 馬場 武 先生

(指導にあたる馬場先生)

4年生の「光電池の学習」示範授業実施後、参加した教員で、授業で子どもたちが使った光電池の教材について、電気関係の教材も含めて教材研究会を持った。

光電池について、子どもになったつもりで自由に様々な実験を行い、この教材について理解を深めることができた。参加の教員も意欲的に取り組み、このような実技研修会が必要なことがわかった。



④ モデル校の実践：デジタル教材活用授業例

モデル校：日野第七小学校6年「地層」

(デジタルコンテンツを投影して)



⑤ ひのっ子教育21 開発委員会の実践

旭が丘小学校 5年 「台風と天気の変化」

(各グループ毎にデジタル教材を用いて検証)



⑥ モデル校の発表に併せ、ひのっ子教育21 開発委員会の報告会開催

JSTデジタル教材研究モデル校である日野第四小学校の研究発表会に、開発委員会の実践を発表することが出来た。これは、本委員会の中にモデル校及び開発委員会が包含された組織としたため、このよ

うないわば合同での実践報告ができたと受け止めている。

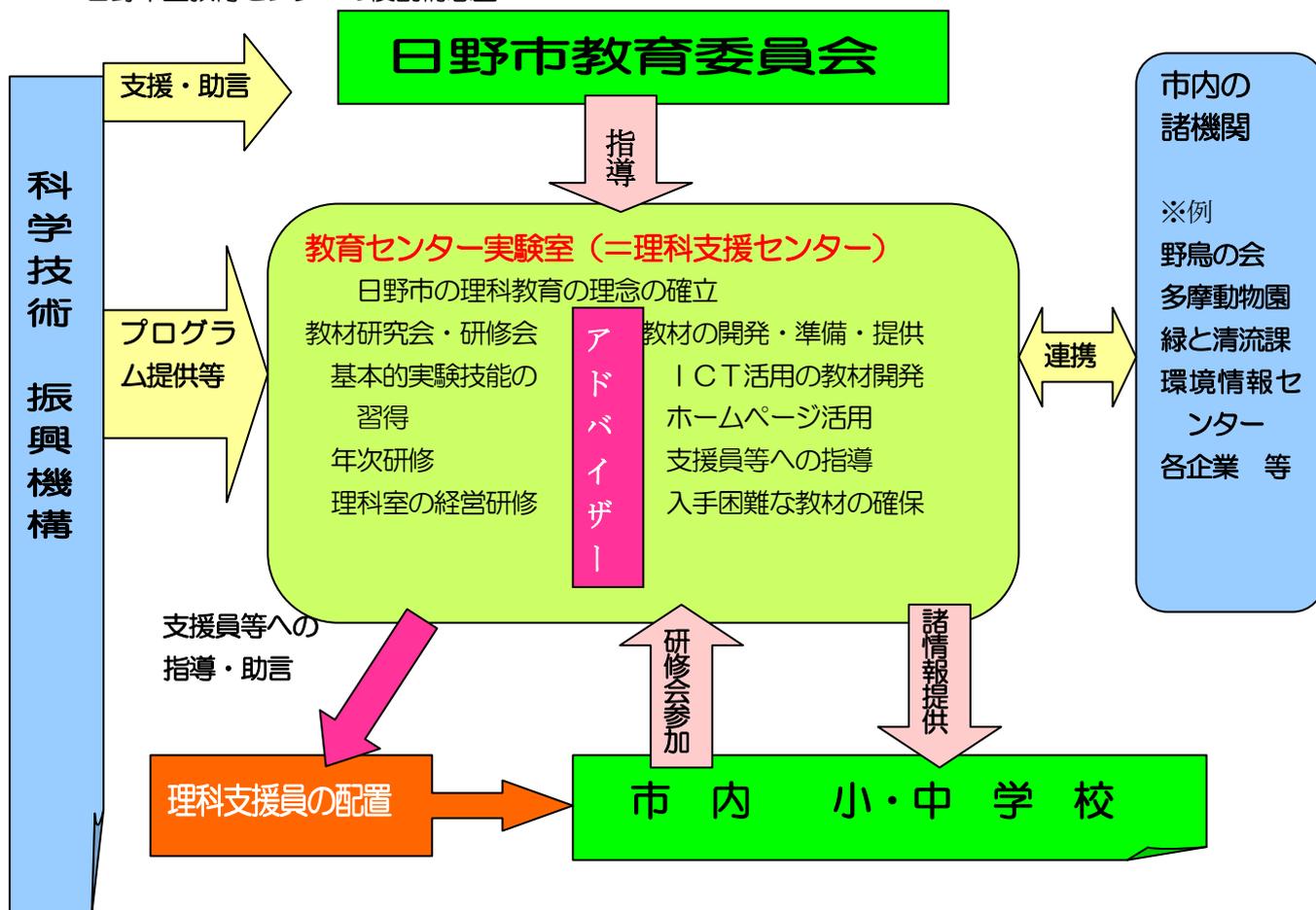
- ⑦ 市内各校が理科学習を進めるために、これまでに連携・協力いただいた諸機関
多摩動物公園（3年：昆虫）4校。環境情報センター（3年：植物の育ち方）2校
野鳥の会（含：WING）（6年：生き物の暮らしと自然環境）：2校、東京ガス多摩市店：2校、
明星大学、府中郷土の森、東京農工大学、等
今年度のこれらの実践や、調査等の研究結果から、一つの課題を解決するためには、課題に関わる多
方面からの協力関係の構築が大事であるということがわかる。

Ⅶ. まとめ：日野市の理科教育の充実を図る方策について

これまで把握してきた課題や、具体的な実践から、「魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の
向上」を図るためには、指導に当たる教員の研修や授業を支える諸条件の整備が重要であることが改め
て把握することが出来た。この解決のために次のような方策が必要と考える。

1. 教育センターに理科実験室（＝理科支援センター）の設置と授業を支える組織を立ち上げる
(1) 教育センターに研究・研修の出来る理科教育実験室の設置
(2) 理科教育の支援を進められる組織（理科支援センター）を教育センターに立ち上げる。
2. 教育センター理科実験室（＝理科支援センター）の役割りの構想

日野市立教育センターの役割構想図



4. ふるさと教育係 —郷土教育推進研究—

I. 研究の概要

1. 研究の趣旨

教育基本法には

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」（第1章「教育の目的及び理念」教育の目標5）と規定されている。

この教育基本法を受け、日野市教育委員会の教育目標の基本方針は次のように定めている。

【国際社会に生きる日本人の育成と地域に根ざした教育の推進】国際化が進む今日、広く国際社会に目を向け、国際平和に貢献できる人間の育成とその土台となる教育が求められている。そのために、日本人としての自覚を深め、国や地域に対する誇りと愛着を育むとともに、多様な文化に対する理解を図り国際理解教育を推進する。」

関連する主な推進施策は次の2点である。

「日本の文化や伝統を大切にした教育を推進する。」

「地域社会との交流や地域の自然や文化等を生かせるよう授業を工夫、改善する。」

この施策の平成20年度の具体的な事業としては、教育センターの調査研究事業「日野の郷土教育推進研究・普及」の推進である。

教育センターでは、平成17・18・19年度の3年間、各小・中学校や関係諸機関に協力を求めて郷土教育推進研究委員会を設置し、郷土教育推進研究を進めてきた。本年度も引き続いて市内小・中学校、関係機関と連携して郷土教育推進研究委員会を組織し、「日野の郷土教育推進研究・普及」を進めることとした。

2. 研究の目的

「郷土日野」を愛し、誇りをもつ「ひのっ子」を育成するために学校における日野の郷土教育のあり方を研究する。

この研究に基づいた各学校の様々な教育活動の実践によって、次のような児童・生徒の育成を目指す。○

- 郷土の自然・歴史・文化を理解する児童・生徒
- 郷土の特色やよさを発信できる児童・生徒
- 郷土の一員として自覚と誇りをもち人々と協力する児童・生徒
- 郷土の未来を思い描き実践する児童・生徒

3. 研究の柱

本年度の研究は「日野」の郷土教材の収集・開発をはじめ、昨年度までの課題となっている事柄について研究を進めることにした。

- ①郷土教材を活用した学習活動を実践する。
- ②郷土教材を新しく開発し資料としてまとめる。
- ③地域を知り、理解する指導者の育成活動を行う。
- ④「郷土資料コーナー」の実践例を紹介し、校内環境整備のあり方を啓発する。
- ⑤郷土教材を電子データ化し郷土教育の普及を図る。
- ⑥郷土教育推進のための多様な視点の拡大を図る。

4. 研究の組織

小・中学校、「資料館」・「歴史館」・「図書館」などの関係者、学識経験者、教育委員会指導主事、教育セ

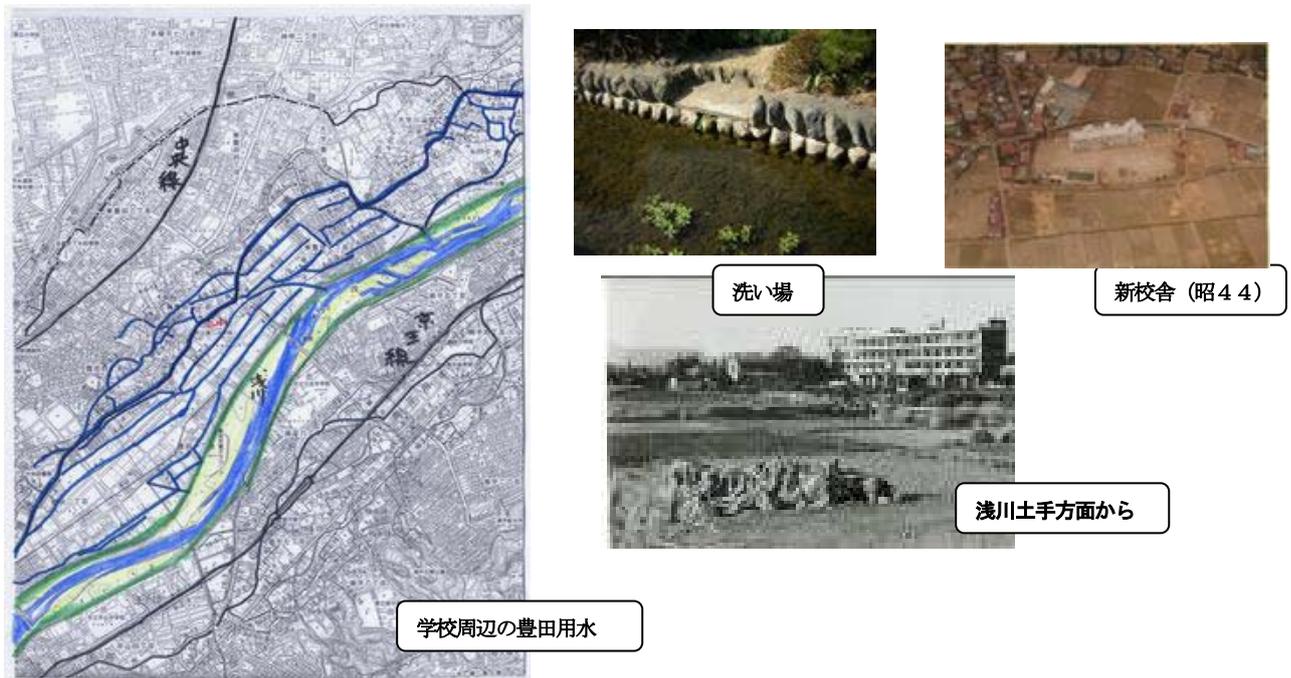
ンター所員で委員会を組織して調査研究を行う。

II. 研究の内容

1. 郷土教材を活用した学習活動実践

1. 豊田用水の周りの土地の使われ方

日野第二小学校の住所は、東豊田であり、となりは豊田である。二小の校歌にも豊田小学校という文言が入っている。しかし、今、学校の周りには田んぼはなく、子どもたちは用水の学習をするにあたり、なぜ学区にこんなにもたくさんの用水が流れているのか、また、そもそも用水は何のためにつくられたものなのか、理解しにくいのではないかと思う。そこで、土地の使われ方が変化してきたことをおさえた実践である。



2. 日野市のごみ改革

日野市では、三多摩地区において「不燃ごみとリサイクル率がワースト1」とごみ問題が大きな課題であった。そこで、平成12年、「環境にやさしいまちひの」を目指して、市民と行政が一体となった「ごみ改革」に取り組み始めた。ごみ改革前（平成11年度）、多摩地区30市町村中の日野市は一人一日当たりのごみの量：可燃ごみ（760.7g）ワースト4、不燃ごみ（193.7g）ワースト1、リサイクル率（13.8%）ワースト1であった。この結果を受けて、さまざまな取り組みの末、現在（平成18年度）は、可燃ごみ（460.2g）ベスト2、不燃ごみ（99.3g）22位、リサイクル率（36.3%）10位になった。

この日野市のごみ改革を、3、4年生の社会「住みよいくらしをつくる・ごみのしよ理と利用」で取り上げ、日野市がどのようにごみを減らしてきたかについても興味をもたせ、調べるきっかけをつくって学習活動を進めた。



多摩地区30市町村中、日野市は？			
一人一日当たりのごみ量	可燃ごみ 460.2g	▶ ベスト2 前年度ベスト1 1位を譲る	残念！
	不燃ごみ 99.3g	▶ 22位 前年度21位	1ランクダウン
	総ごみ量 809.1g	▶ 7位 前年度7位	去年と同じ
	リサイクル率 36.3%	▶ 10位 前年度13位	3ランクアップ

3. 食材と地域

日野六小の学区では農地が少ないため、児童は、農地にあまり関わりが無く野菜を育てる経験も乏しい。日常の食事の様子や1学期に行った「食生活アンケート」の結果から、野菜が苦手な児童が多いことも分かった。本校の校内研究「食育」と郷土教育と関連付けた実践を進めた。

学校給食で扱っている野菜の「約1割」が地場産の野菜である。これは、他市の学校と比べても、高い割合を示している。新鮮であること、採りたてのため栄養価が高いこと、味がよいこと、生産者と消費者の顔が互いに分かるため安心・安全であること等が理由である。

子どもたちが、栄養士の話の聞いたり自分で調べたりする活動を通して苦手な野菜をすすんで食べたり、日野の農業を身近に感じられるようになったりすることを通して、自分たちが住む地域に関心をもち地域でできたものを大切にすることから、郷土を愛する心を育み、地域社会の一員として生産者を守る心を育むことを目指した実践である。

4. ペリー来航と日野の人々



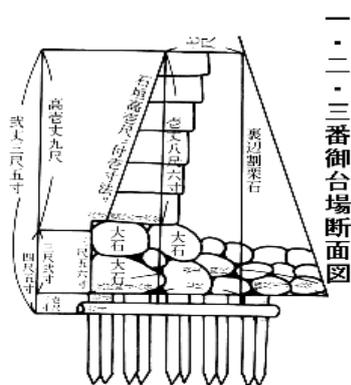
ペリー来航(嘉永6年6月3日に浦賀沖に出現)に関する史料は国内各地に残されており、多摩地域にも多数ある。例えば、八王子市の秋山家(蘭方医)には、ペリーの肖像画や国書受け取り時に警護にあたっていた千人同心の手紙が残されている。また、御台場を使用する松の切り出し(50カ村、延べ7,262人、3,967本の松丸太)に関する文書(鎌水村大塚家)も残されている。さらに、五日市憲法で有名な深沢家や谷保村(現国立市)の本田家に黒船の絵がある。『日野市史』には一般的な記述しかないが、土方家文書として「異国船渡来

一件之写」などが残っている。

この文書は、黒船が浦賀に来た際、警備に当たっていた四藩や浦賀奉行などの報告書、御台場の設計見積書などである。当時を知るには一級の資料であるが、出版業

界の進展に伴い書き写されたようで、ほぼ同じ文書が『神奈川県史』や『大日本古文書』、『品川町史』などで活字化されている。また、日野宿の助郷総代をしていた柴崎村(現立川市)の家主鈴木平九郎の「公私日記」にも黒船や御台場の築造に関して

多く記述されている。これらにより、日野市域の人々が国負担を知り、同時に江戸時代から明治時代への大きな時代の動きを身近に捉えることができると考えて教材化した。



史資料を活用する国防の一環として築造された御台場への

2. 新開発郷土教材資料

1. 地区の特色をいかした「まちづくり」

教科書で学習する事例だけでなく、自分の住む日野市でも市民の願いを実現するための政治の働きがある。市民の願いを実現するための政治の働きを調べることは、一市民として政治を身近に感じ政治に関心をもつよい機会になると考えた「高幡」の街の変化を取り上げた教材である。

①高幡不動駅周辺の開発や万願寺地区の道路工事などは、子どもたちの日常生活とも大きく関わることであり、実際に子どもたちがその様子や変化を調べ、見ることができる。

高幡地域の変化

駅前広場の整備、鉄道の踏み切りによって生じる交通渋滞解消、京王線高幡不動駅とモノレール駅とを結ぶ歩行者用道路の敷設、北側の道路整備と住宅環境・公園等公共施設の整備、歩行者の安全を優先する不動尊参道の改修（一方通行の規制、車道と歩道の段差減）

高幡地区のこうした街の様子や変化について、街づくりの目的・方法・施行に至る経緯等を、具体的事例から学ぶことで、政治と自分たちの日常生活との関わりや、高幡の街の変遷・発展を考えさせる教材である。

- ②日野市は土地区画整理事業を基本にまちづくりを推進してきている。そして今、将来に及ぶ日野のまちづくりは、「まちづくりの9本の柱」を、まちづくり基本計画の柱として進められている。こうした点からも「地域の特色を生かしたまちづくり」はどの学校でも教材化が可能である。

2. 鎌倉幕府と真慈悲寺

頼朝が武家政権をつくり全国支配の道を行っていった過程の中で、具体的事例として真慈悲寺と中央集権国家を目指す鎌倉幕府との繋がりを理解させる教材である。

(3) 幕府と朝廷			
展 開	<p>④鎌倉幕府の中央政治組織と律令制の仕組みとはどのような違いがあるのだろうか。</p> <p>⑤頼朝が鎌倉に幕府を開いたわけを話し合う。</p> <p>⑥頼朝が地方支配を進めた仕組みを調べる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の中央集権政治を目指す仕組みを律令制と比較させる。 ・頼朝が鎌倉の地に幕府を開いた理由を、軍事面と政治面の二面から考えさせる。 ・守護・地頭の役割を調べさせる。 ・幕府が朝廷とは別に守護・地頭を置くことによって全国支配に向けた基盤づくりを形成していったことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平氏による朝廷や政治への関わり方と、源氏による鎌倉幕府の武家政権の違いをおさえ、合理的な組織がつけられたことに気づかせる。 ・写真「空から見た鎌倉」や京・鎌倉の位置を示す地図をヒントにする。 ・幕府の地方支配の様子について、「鎌倉街道」「真慈悲寺」にふれ、「頼朝」や「鎌倉」や「権力」のもつ意味を考えさせ、また、我が地と鎌倉の繋がりが考えられるようにする。

3. 満州(まんしゅう)に移住した日野の若い人たち

昭和の初めの日本はたいへんな不景気で、とくに農村はまずしく生活が苦しかった。昭和10(1935)年、日本が実権(じっけん)をにぎった満州国を朝鮮の北方につくった。政府はこの広い荒野を開拓するために、昭和11(1936)年から20年間で500万人を移民する計画を立てた。そして、七生村(今の日野市)三沢などに満州へ行くための訓練をする所をつくった。とまる所は、直径10mくらいの円形の建物で真ん中に土間(どま)があり、その中央に屋根を支える柱が1本立っていた。ここで、6ヵ月集団で生活したり農業をしたりしてから満洲へ移住した。

昭和15年に北満州で生活をした人の話によると、見わたすかぎりの草原で木は1本もなかった。建物の中は土間でムシロがしいてあるだけだった。食事はむぎ飯と梅干し1個みそ汁というそまつなもので、部屋には電気はなかった。しかし、夏なので昼が長く、夜8時でも新聞が読めた。毎日スコップ1本で道路や畑を作った。一番困ったのは、あせをかいても風呂(ふろ)に入れないことだった。そこは水に乏しく、燃料が少なかったからだ。800人が一緒だったので、時にはけんかもあったが、ここには2ヵ月間いて

また日野に戻(もど)った。

この経験をもとに、昭和19年3月新京の近くの東京報国農場に日野の若い人22人をつれて移住し、農業を始めた。ここは土地もよく、新京は大都市だったので野菜を作って出荷すれば、儲(もう)かると考えた。しかし、戦争が激しくなり、日本にもどろうと思っている時に、ソ連軍が攻めてきた。日本軍も引きあげてしまったので困っていると、王発という中国の大学生が助けてくれ、かくまってくれたのでなんとか日本に帰ることができた。当時、多くの人がソ連軍に殺されたり、捕虜(ほりよ)になったり、中国人に引き取られたりして日本に帰れなかった。



円錐形の屋根をもった拓務訓練所の「日輪兵舎」

に思った。

◎児童の感想

・七生村三沢に満洲に行くための訓練をする所があつて、自分の住んでいる町にそんな所があつたんだと驚きました。満洲へ行った人たちは大変だったんだと思いました。

・日野の人も満洲に移住したということは、初めて知った。ご飯が少なかつたり、風呂に入れなかつたから、すごく大変だったろうなと思った。日本に帰れなかつた人はどうしたのか疑問

4. 「中学校社会科副読本

『のびゆく日野』地形図の活用」

郷土教育では資料やデータなども大切であるが、自分の住んでいる地域を歩いて、自分の目で見て、確かめることが基本である。日野市内すべての中学1年生に配布される2万5千分の1地形図を活用して、ふだん見慣れている地域を多面的にとらえ、地域の興味・関心を高め、再発見の場としたい。そのうえで実際に歩いてみて現地を確かめさせたい。・・・**地図が好きになる・日野市が好きになる**

配布される地形図は一色刷りなので、地形図の扱いに慣れない中学生には読み取りにくいことが考えられ、国土地理院発行の多色刷りの地形図(武蔵府中・立川・八王子)やコンピュータ室を利用して国土地理院のホームページ(電子国土ポータル)で補いたい。



5. 「小学校社会科副読本『わたしたちの日野』導入時の工夫～既習事項クイズの活用～」

展 開	2. 「ふるさと検定クイズ」をしながら、わたしたちの町や地域の様子について概括する。 (道路・施設・自然・人などを確認する。)	○ここで扱う「ふるさと検定クイズ」は、1・2年生の時に学習したり経験したりした内容をクイズ化する。 ○検定クイズの各ステップ(1～4)の設問をクリアしていくことで、地域に対する興味・関心を高める。 ・1単位ステップは、5問。 ・5問中2問正答で1つのステップをクリア(合格)。学級の実態により1問正答で合格としてもよい。
	30 分	○答え合わせをしながら1・2年生時の生活科などの既習事項を確認していく。 ・随時、写真や絵図を使って説明していく。 ・拡大コピー、OHP、実物投影機、書画カメラ、e-黒板などを利用した地域の白地図に該当事項を記入したり、図示したりしていく。

4. 郷土教育環境の整備の啓発

郷土教育を推進するためには学習活動を進める上でも、また、子どもたちが普段から目にふれたりして親しみをもつ上でも環境を整えておく必要がある。保管場所一覧表も作っておきたい。

校内環境整備事例「郷土資料コーナー」

1. メモリアルコーナー

2 図書室郷土資料コーナー



3 歴年の航空写真

4 資料室 …

呆音易折一覽表（一部友染）	No	分類	資料名	資料数	保管場所
	1	地図	明治時代の平山地区の地図	1	小会議室
	2	写真	昭和22年の航空写真	1	小会議室
	3	写真	昭和43年の航空写真	1	小会議室
	4	写真	昭和45年ごろの航空写真	1	小会議室
	5	写真	平成5年の航空写真	1	小会議室
	6	写真	平成15年の航空写真	1	小会議室
	7	副読本	平山小130周年記念誌	60	資料室
	8	副読本	平山小感謝の集い記念誌	200	資料室

5. 郷土資料の情報提供の推進

過去に発行した『郷土日野』指導事例』第一集・二集・三集のPDF化、そして、本年度発行する予定の第四集をPDF化することを本年度の目標とした。

6. 郷土教育推進視点の拡大

「郷土教材の収集・開発」による授業実践の視点のほかに日野市教育委員会が求める「日野の郷土教育推進研究・普及」の視点を洗い出し、資料として開発、整理しておくこと、なおかつ、具体事例を各学校に提供していくことが重要である。子どもたちが「ふるさと日野」を愛し、誇りに思う心情を培うためにはどのような方法があるだろうか？ 多様な視点で多様な活動を仕掛けることによって、子どもたちが心のうちに自然体で～無意識のままに～培われていくかを様々考えておくことが大切である。学校現場の実践の中で地道に進めていくことから少しでも郷土や地域への想いや感性を育てていきたい。

<どのような視点が考えられるか？>

1. 郷土に関わる人物や話材、また、自然や地域環境を取り上げ授業化する。
 - 例 国語：「方言と共通語」の単元で日野の方言について扱う。
 - 算数：小学校2・3年「長さ」の学習の中で地元の概略地図も取り入れる。
 - 音楽：異聖歌の童謡を取り上げる。
 - 英語：ふるさと教材の英語バージョン（話材を英訳しておき授業に取り込む。話材を英訳させ友だちとの比較・修正作業を経て冊子化する。等々）
2. 郷土に関わる人物や話材、また、自然や地域環境を「校長講話」に取り入れる。
3. 開校記念日や周年行事に因んで、学校や地域に関する学習を教育課程に位置づける。
4. ふるさと検定表やクイズを作成して興味・関心を喚起させたり、郷土理解を深めさせたりして地域・郷土意識を高める。
 - ・4（3）年生社会科授業導入時に、3（2）年生の復習と意欲付け・課題の明確化をねらいに実施
 - ・特活～ふるさとを知ろう……集会活動、係活動
 - ・中学校地理的学習で単元化～自然・観光・歴史・産業などの領域別に調査しクイズ化していく
5. ご当地ソング
6. 俳句
7. 地域名物選び（日野百選・△△町50選・○○小20選…）～例・一番橋から観る富士山・百草ファームのアイスクリーム……～
8. ふるさとに伝わるお話などを劇化して学芸会やクラブ活動などに取り入れる。

<具体例> ふるさと教材の英語バージョン～中学校英語や総合学習における活用資料～
 「勝五郎は なぜ“ほどくぼ小僧”と呼ばれるようになったか？」

<p>勝五郎 うまれ変わり物語</p> <p>死んだ人間が、また、生まれ変わるという不思議な話が日野の程久保に伝わっています。</p> <p>昔々（江戸時代）、八王子の“中野村”に一人の子どもがいました。</p>	<p>A change story born in Katsugorou</p> <p>A mysterious story that a dead human being is reborn is handed down in Hodokubo of Hino.</p> <p>Once upon a time (the Edo era) there was one child in "the Nakano Village" of Hachioji.</p>
---	--

Ⅲ. 研究のまとめ

- *郷土教材を開発し、学習活動事例を数多く提供していく。今後取り上げたい新しい郷土教材の候補としては、「百草の里山」、「伝承・芸能」、「日野の名産」等が考えられる。これらを題材とした教材開発の可能性を探っていくことも検討課題の一つであろう。
- *実際に現地を「視て・触れて・感じる」臨地研修の機会を今後も継続するとともにその機会を増やすことも大切である。できれば「学校単位の“地元フィールドワーク”」の計画を加えることも望まれる。
- *郷土教材資料の画像数を増やし、学習資料としての価値を高める。
- *郷土教育のあり方を検討しながら郷土意識を醸成する具体的事例を数多く開発して各学校に提供していく研究を深めたい。また、その内容を電子データ化して、指導者自身また子どもたち自身が取り組みやすい具体事例を提供していくことが重要である。

☆郷土教育推進研究委員

委員長	小杉 博司 (日野第一小学校長)	
副委員長	秋山 讓児 (日野第四中学校長)	
学識経験者	會田 満 (中野・元仲町小学校長)	吉野美智子 (元日野第二小学校長)
委員	吉原 涼子 (日野第二小学校教諭)	小坂 克信 (日野第四小学校教諭)
	滝田かおり (日野第六小学校教諭)	山形 慎一 (日野第七小学校教諭)
	鎌田 博志 (平山小学校教諭)	倉田 和俊 (日野第一中学校教諭)
	清水 敬造 (日野第四中学校教諭)	谷 靖子 (三沢中学校教諭)
	峰岸 未来 (郷土資料館学芸員)	菅野 尚美 (中央図書館司書)
	金野 啓史 (文化スポーツ課係長・学芸員)	小林 邦子 (学校課指導主事)
	丘 博光 (教育センター所員)	

☆郷土教育推進研究協力者 (敬称略)

小澤昭道 (中央図書館)	猪俣恵子 (中央図書館)	宮川栄一 (郷土資料館)
中山弘樹 (郷土資料館)	北村澄江 (郷土資料館)	鈴木淳世 (郷土資料館)
池田正昭 (文化スポーツ課)	小宮 豊 (勝五郎生まれ変わり物語探求調査団・藤蔵子孫)	
斎藤 努 (観光協会)	尾形雄貴仁 (日野第四中学校)	
河野和昌 (ICT活用研究委員会)	望月 桂 (教育相談室)	栗原 梓 (適応指導教室)

5. 教育資料・広報係

I 教育資料の収集及びその活用

本年度、具体的活動として次の事項を実施した。

- ・教育図書、DVDソフトの選定、購入、整理及びその紹介と貸し出し
- ・研究資料等の収集、整理、及びその紹介と提供
- ・採択見本教科用図書及び保存教科用図書の閲覧、展示、整理
- ・学校図書館、教育センター、市立図書館の連携システム導入に向けて、関係諸機関との情報交換並びに他地区先進取り組み教育センター等の視察
- ・平成20年度日野市立教育センター紀要の発行

(1) 教育図書、DVDソフト、ビデオソフトの選定、購入、整理及びその紹介と貸し出しに関すること

本年度の図書の選定、購入に当たっては、予算の有効活用を図るために、次の観点で所員から購入希望図書を募り、選定した。

- ・今日的教育課題に対応して、教職員の資質向上に役立つもの
- ・学習指導要領の解説に準拠した指導に関するもの
- ・教職員の実践や研修に役立つもの
- ・幼稚園・小学校・中学校と偏りなく選定する方向で配慮する。
- ・蔵書数の少ない教科、領域に配慮する。

しかしながら、購入については、市の方針により今年度に限り見送りとした。

教育図書、DVDソフト、ビデオソフトの整理、紹介については、これまでの教職員研究室購入図書原簿を引継ぎ、「教育センター購入図書原簿」として記載するとともに、「教育センター購入図書一覧簿」「教育センタービデオDVDソフト一覧簿」に継続記載し、それぞれフロッピー化し保存した。

また、教育センターだよりを通して、今年度購入の「図書」並びに「ビデオ・DVDソフト一覧」の紹介・貸し出し方法を知らせ、その利用度を高めるよう努力した。

(2) 研究資料の収集、整理、及びその紹介と提供に関すること

教育資料の収集、整理に当たっては、文部科学省、東京都教育委員会、日野教育育委員会、日野市公立幼稚園、小・中学校、各種教育研究団体の教育資料の内容（経営、教育研修、研究、学習教材、資料、その他）に関する分類記号に基づき収集し、整理している。

本年度収集、整理した研究資料関係は、継続購読誌等を除いて、日野市公立小・中学校研究発表記録、同幼稚園・小学校教育研究会紀要、同中学校教育研究会紀要、同校長会研究シリーズ、同教頭会研究収録、同小・中学校教育要覧、同特別支援教育要覧、都内他市・区教育研究所・センター研究紀要及び要覧等、提供された資料である。市内公立小・中学校道徳授業公開講座の資料、同周年行事に関わる冊子等も受け入れている。

(3) 保存教科用図書の整理、展示に関すること

小学校（昭和61年度～平成20）、中学校（昭和56年度～平成20）の教科用図書を記載された「教育センター保存教科書一覧簿」とそれをフロッピー化したものを整理保存し、すべての教科書を展示し、閲覧可能としている。

(4) 学校図書館・教育センター・市立図書館連携システム導入に関すること

市立図書館の図書データの活用及び市内小・中学校と教育センターの図書が相互に検索（予約）出来るようなシステム（ネットワーク機能）の構築に向けて、諸機関との打合せ並びに諸準備を進めている。なお、連携システム機能は平成19年度が導入開発（該当本にバーコード打ち込み完了）、平成20年度に導入開始とした。

Ⅱ 「教育センターだより」の企画・編集・発行

「教育センターだより」の企画、編集、発行に当たっては、編集委員会を経て、次の内容で、年間3回発行し、市内公立幼・小・中学校全教職員と市内外関係諸機関に配布した。

- ・ 調査研究課題、活動計画、及びそれに関する活動状況・成果の紹介
- ・ 学校・社会（地域）教育関係者の利用を促すもの、活動の仕方や利用・参加方法

(1) 平成20年度「教育センターだより」発行内容

	第15号 6月 (8ページ)	第16号 11月 (9ページ)	第17号 3月 (9ページ)
表紙 写真	・教育センター前景 ・避難訓練の様子	・教育センター前景 ・調査研究事業中間報告会	・教育センター前景 ・調査研究事業研究発表会
巻頭言 P-1	『教育センター事業は何をめざすか』 日野市立教育センター 所 長 篠原 昭雄	『新しい学習指導要領への移行期を迎えて』 日野市教育委員会 教育部参事 浮須 勇人	『教育センターに期待する』 日野市教育委員会 教育委員長職務代理者 馬場 武
P-2	事業内容 調査研究部 ●基礎調査研究係： 「教職員研修の在り方研究委員会」 —教職員研修の在り方に関する研究—	調査研究事業の活動の状況 ●教職員研修の在り方研究委員会 「教職員研修の在り方に関する研究」	年間活動の成果と課題 ●教職員研修の在り方研究委員会
P-3	●教育経営係 「ICT活用研究委員会」 —ICTを活用した実践的な研究—	●ICT活用研究委員会 「ICTを活用した実践的な研究」 ・ICTの「定着と活用の年」への実践を！	●ICT活用研究委員会
P-4	●教科等教育係 「理科教育推進研究委員会」 —理科教育推進研究— ●ひのっ子教育21開発委員会 —ひのっ子教育21開発委員会の研究—	●理科教育推進研究委員会 「理科教育推進研究」	●理科教育推進研究委員会 「理科教育推進研究」
P-5	●ふるさと教育係 「郷土教育推進研究委員会」 —郷土教育推進に関する研究— ●研修部 「教職員研修係」 —教職員の研修— —研修内容—	●郷土教育推進研究委員会 「郷土教育推進の研究」 —研究実践の様子—	●ひのっ子教育21開発委員会 「1年間の取り組み及び成果と課題」
P-6	相談部 ●一般教育相談係 「一般教育相談」事業内容・計画	●ひのっ子教育21開発委員会 「ひのっ子教育21開発委員会の研究」	●郷土教育推進委員会 「郷土教育推進の研究」 —研究実践の様子—
P-7	●学校生活相談係・わかば教室 —「わかば教室」の活動—	●研修部 「日野市教育委員会主催研修会」から	●研修部 「日野市教育委員会主催研修会参加状況」

P-8	● 調査研究部 「教育資料広報係」 —平成20年度教育センター —組織・係図—	● 一般教育相談係 「自己決定し自己責任を」 日常生活の中から	● 一般教育相談係 「一般教育相談」
P-9		● 学校生活相談係・わかば教室係 「学校生活相談係・わかば教室」 の活動」	● 学校生活相談係 わかば教室

※資料の收拾・整理・案内(パソコンによる検索機能の活用を含む)等を、更に充実しそれらの活用を図ることが今後の課題である。

Ⅲ 教育広報「ひのっ子きょういく」

(1) 「ひのっ子きょういく」発行の目的

- ① 日野市教育委員会としての施策や各学校教育の生き生きした現状等の最新情報を各幼・小・中学校及び保護者や市民に広く伝える。
- ② 読み手である保護者や市民及び関連機関に、豊かな視点で分かりやすく伝えていくという目的がある。そのため、「紙面の工夫・内容の工夫」を教育委員会広報部（庶務課・文化スポーツ課・学校課）で取り組んできた。そのため、今年度も日野市広報の形式をふんで、更に2色刷りカラーで（多色の必要な内容9月号・1月号の1・4面は多色刷りで）実施してきている。
- ③ 日野市の子供たちの一人一人が活躍する様子と作品等を『ひのっ子ががんばっています』の欄で伝えている。また、学校の様子（特色ある学校活動・選択制を考慮した学校の窓）を更に充実できるように伝えてきた。
- ④ 今年度は紙ベースのみでなく、『日野市教育委員会情報』として何時でも誰でも何処でも見ることが出来るように、編集委員の他多くの協力を得て「ホームページ」に掲載している。また、「紙ベース」の多くは教育センター資料室に保存してきた。保存することも大切であると考えます。

(2) 発行内容

- ① 発行機関 日野市教育委員会（教育庶務課・文化スポーツ課・学校課）
- ② 発行広報名 「ひのっ子きょういく」
- ③ 発行部数 20年度13,500部程度
- ④ 配付対象 本市の市長部局の部・課長・教育委員等、教育関係機関（都・区・市町村）、教育委員会市内教職員等、幼稚園・小中学校全保護者、教育センター、日野市地区育成会、市政図書室（図書館）、中央公民館、郷土資料館、ふるさと歴史館、青少年委員、民生委員等
- ⑤ 発行回数 20年度は例年通りで61号～66号の6回（但し4面を1月号で1回増やす）
- ⑥ 発行月 5月（4面）・7月（4面）・9月（4面）・11月（2面）・1月（4面）・3月（2面）

(3) 編集関係

- ① 編集会議 6回（4月・6月・8月・10月・12月・3月）
- ② 編集委員 青木奈保子（庶務課） 金野啓史（文化・スポーツ課） 真島 均（学校課）
大山香奈（学校課） 鈴木 基（学校課） 許斐文代（学校課）

③ 編集会議の内容及び方針

保護者や市民のニーズに合った、より良く豊かな情報提示のための編集のあり方および内容等を話し合う。

- ・教育委員会の施策および事務局として、広報の方向を検討する。
- ・各部や課の施策発表（含む園・学校）等を検討する。
- ・文字・記号・図表・写真・ネーミング等の「デザイン」を工夫する。
- ・表現法等を工夫する。（ホームページの活用等）

(4) 平成20年度の記事内容

日野市教育広報 第61号「発行 日野市教育委員会（編集 教育部学校課）」	
4面（5月16日発行） 教育委員会教育目標	
1面	○七生緑小開校・平山小新校舎へ (庶務課) ○コラム（教育部参事） (教育部)
2面	○平成20年度教育予算と事業のあらまし（85億7千659万円） (庶務課) ○不審者情報メール配信 (庶務課)
3面	○新しい園長先生・校長先生の紹介 (学校課) ○ICT活用教育推進室 (ICT活用教育推進室) ○学校五日制対応事業・日野市家庭教育学級 (文化スポーツ課)
4面	○日野市教育委員会に「特別支援教育推進チーム」を設置 (特別支援教育推進チーム) ○ひのっ子ががんばっています・地域と結び合う教育 ○平成19年度文部科学大臣優秀教員賞受賞 (学校課) ○ひのっ子ふるさと体験は、郷土資料館へ (郷土資料館)

日野市教育広報 第62号「発行 日野市教育委員会（編集 教育部学校課）」	
4面（7月15日発行） 教育委員会教育目標	
1面	○子どもをネット上のトラブルから守る (ICT活用教育推進室) ○コラム（日野市小学校校長会会長） (教育部)
2面	○日野市立中学校8校の窓 <紹介> (学校課)
3面	○ひのっ子ががんばっています<国際ユースサッカー大会・活躍する部活動> (学校課) ○平山小新たなスタート (学校課) ○ひのっ子エコアクション (庶務課) ○夏の健康と熱中症について (学校課)
4面	○学校プールと校庭開放・芸術文化の薫るまち (文化スポーツ課) ○多摩平図書館（ヤングコーナー） (多摩平図書館)

日野市教育広報 第63号「発行 日野市教育委員会（編集 教育部学校課）」	
4面（9月12日発行） 教育委員会教育目標	
1面	○東光寺小学校の校庭芝生化・日野市学校教育基本構想 (学校課) ○コラム（日野市中学校校長会会長） (教育部)
2面	○小学校の窓（小学校の紹介）<ホームページも開いてみてください>
3面	○小学校の窓（小学校の紹介）<2～3ページで全小学校の紹介>
4面	○ひのっ子ががんばっています（全国けん玉道選手権大会等） (学校課) ○平成19年度東京都学力調査・平成20年度CRT結果 (学校課) ○日野市郷土資料館特別展・第18回スポレクへ (文化スポーツ課)

日野市教育広報 第64号「発行 日野市教育委員会（編集 教育部学校課）」	
2面（11月12日発行） 教育委員会教育目標	
1面	○日野市の特別支援教育（特別支援教育推進チーム） ○平成20年度 全国学力・学習状況調査の結果（学校課） ○コラム（多摩動物公園 土居利光園長）（教育部）
2面	○ひのっ子ががんばっています <都合唱及び吹奏楽コンクール等>（学校課） ○日野市学校給食費検討委員会（学校課） ○谷の上横穴墓群（文化・スポーツ課）

日野市教育広報 第65号「発行 日野市教育委員会（編集 教育部学校課）」	
4面（1月15日発行） 教育委員会教育目標	
1面	○年頭所感 <空はなぜ青いの？（田口直教育委員長）>（学校課） ○「日野のサイノカミ（どんど焼き）」（郷土資料館）
2面	○「市内の学校の授業風景より（コンピュータ活用授業）」（ICT活用教育推進室） ○日野市の特別支援教育～リソースルーム～について（特別支援教育推進チーム）
3面	○日野市一斉歯みがきウィークと食育（学校課） ○平成20年度全国学力・学習状況調査～児童・生徒の生活状況～（学校課） ○「くらしの中に図書館を一市民に役立ち、共に歩む図書館」（多摩平図書館）
4面	○ひのっ子ががんばっています<部活動及び個人技等>（学校課） ○「東京都教育の日」記念行事で表彰<東京都教育の日・記念行事>（庶務課） ○日野市の文化財紹介（百草の丘陵に真慈悲寺をしのぶ）（郷土資料館）

日野市教育広報 第66号「発行 日野市教育委員会（編集 教育部学校課）」	
2面（3月12日発行） 教育委員会教育目標	
1面	○日野市学校教育基本構想（教育部） ○ブリティッシュヒルズ中学生国内留学報告（教育部） ○コラム（小中学校PTA協議会浜屋浩会長）（教育部）
2面	○ひのっ子ががんばっています<全国中学生人権作文等>（学校課） ○東京都教育委員会職員表彰受賞・団体の部（教育部） ○給食費検討委員会報告（学校課） ○日野市文化財探訪（文化・スポーツ課）

（5）21年度の方向

教育広報 第67号「発行 日野市教育委員会（編集 教育委員会・教育センター）」

○ タブロイド版⇒現在の新聞形式

○ 印刷所から発行されたものを「PDF」で受け、「ホームページ」に掲載

6. 教科等教育係 ひのっ子教育21開発委員会 研究

研究テーマ：魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上
～観察・実験融合型デジタル教材の活用を通して～

I 主 旨

魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上

誰でも好きになる魅力ある理科授業のあり方を構築し、理科教育の質的向上を図ると共に、ひのっ子の基礎学力向上を図る

文部科学省「小・中教育課程実施状況調査」（平成15年度）〈教科の勉強が好きという割合〉の中で、理科の勉強が好き割合は、小学校第5学年では、約75%、いちばん少ない中学校第二学年でも約60%が興味関心を持っている。

本市の児童生徒についても同様の傾向が見られる。さらに理科の国際的な学力調査の結果から、我が国の理科の学力は、十分とは言えないとの結果がある。

PISA2006学力調査（2006は、科学的リテラシーに重点を於いて実施）の結果から、我が国の児童生徒の科学的に理解し説明する力が不十分であり、関心・意欲等についてもOECD加盟国の平均よりも大きく下まわっているという事実からも、我が国の児童生徒の理科の学力低下が明らかになり、学校における理科教育振興の必要性が高まっている。

ひのっ子の学力は、これまで実施されたPISA2006学力調査結果と同様の傾向にあると受け止められる。

II 目 的

- (1) 日野市の理科教育の質的向上を目指し、従来の実験・観察指導に加えてデジタル教材を活用することで、より魅力ある理科授業を展開できるよう、理科を教える教師の指導力を向上させる。
- (2) これらの授業の展開を進め、最終的には科学に興味を持ち、科学的な目で考えることが出来る児童・生徒の育成を図る。

III 研究体制

(1) 委員長（2名）

理科教育の実践研究の経験を有する管理職

それぞれ小学校部会長1名、中学校部会長1名とする。

（副校長は、それぞれの副部会長とする）

(2) 委員（各学校から1名以上）

小学校：各教科の指導に当たって、効果的な指導方法を工夫してきた実績があり、デジタル教材を用いて、様々な指導方法を考案できる教諭または主幹。

中学校：日常の学習指導で理科の指導を行っており、デジタル教材を用いて指導法のアイデアを出せる教諭または主幹。

IV 教 科

小学校、中学校共に理科

V. 研究日程

4/25（金）	開発委員会①	教育センターパソコン室	開発委員会発足
5/15（木）	開発委員会②	教育センターパソコン室	デジタル教材について
6/ 5（木）	開発委員会③		デジタル教材の活用に向けて
7/28（木）	開発委員会④		デジタル教材の活用に向けて、指導案の作成等
8/ 6（水）	開発委員会⑤	パワー合宿	デジタル教材の活用化研究（大成荘）

- / 7 (木) 開発委員会⑥ パワー合宿 デジタル教材の活用化研究 (大成荘)
- / 8 (金) 開発委員会⑦ パワー合宿 デジタル教材の活用化研究 (大成荘)
- /26 (火) 開発委員会⑧ デジタル教材を位置づけた指導案の作成と検討
- 9/ 4 (木) J S T のデジタル教材活用指導者研修会に参加 (日野市から 6 名参加)
- / 5 (金) J S T のデジタル教材活用指導者研修会に参加
- /19 (金) 開発委員会⑨ デジタル教材を活用した授業研究の準備
- 10/14 (火) 開発委員会⑩ 授業研究 旭が丘小学校
- 11/18 (火) 開発委員会⑪ 授業研究 第 4 学年 日野第六小学校
- 12/19 (金) 開発委員会⑫ 研究のまとめと報告会に向けて
- 1/20 (火) 開発委員会⑬ 報告会準備
- /23 (金) 開発委員会 小学校部会報告会 日野第四小学校
- 2/13 (金) 開発委員会⑭ 今年度の研究のまとめ

VI 研究・実践の経過及び結果

デジタル教材の活用化に向け下記のように実践研究を通し、理科を教える教師の更なる指導力の向上をねらってきた。

(1) 全教員の「理科ねっとわーく」利用者登録を進めた

小学校：常時活用できるよう教員が「理科ねっとわーく」利用者登録を行った

理科を指導する小学校の登録者数はほぼ 100%となっている

中学校：理科担当教員が「理科ねっとわーく」未登録者の利用者登録。

中学校では、既に授業に活用している教員も複数あり、中学校として共に活用を進める。

(2) 授業実践を通して活用研究を進める

指導案の作成と実践化：開発委員がデジタル教材の活用の主旨や様々な活用の方策の研究に努め、各学校のリーダーとなってデジタル教材の活用化を進めてきた。

これまでに開発委員会としての授業研究は 2 回実施してきた。

また、各開発委員は、担当学年の理科授業にデジタル教材を活用して授業実践を進めてきている。(この実践の成果が、別添の指導案集である)

これらの活用研究を通して、日野市の実践を生かし、指導案を一部改訂した。特に、単元の評価規準を指導案の中に位置づけ、指導と評価の一体化を図り、デジタル教材が効果的に活用できるよう工夫した。

《おすすめのデジタル教材》

また、どのような場面で活用することが効果的なのか様々な観点から活用の仕方をまとめてデジタル教材を検討し、「理科ねっとわーくおすすめのコンテンツ」としてまとめ、活用化を進める一助とした。

《デジタル教材を用いての授業のあり方》

これらの実践の結果、デジタル教材を活用した授業のあり方については、理科の授業の骨格を明確にし、さらなる具体的な実験・観察を着実にいき、これまで言葉や黒板・資料等で説明してきた内容を、このデジタル教材に置き換えることにより、効果的に活用できることがわかってきた。

(3) 実践報告の工夫

実践報告をICT活用教育推進室ホームページ上に報告し、誰でも閲覧できるようにし、JSTへの報告の一部とした。また上記のように指導案を工夫した。

(4) 各学校の活用率の向上化へ向けて

特に小学校では、この開発委員会の実践と共に、モデル校を3校設け実践を深めてきた。これらのモデル校の実践とともに、各校の開発委員が中心になって実践を進めてきている。

VII 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果 これまでの研究で得られた成果として次のことが上げられる。

- ・理科学習における児童・生徒の関心や意欲が向上し、問題意識が高まることなどが報告されている。
- ・理科を指導する教員を含め、教員全体が「理科ねっとわーく」利用者登録を行った結果、いつでも活用できる環境が整った。
- ・開発委員が実践を基に、活用事例の指導案を作成したり、「おすすめコンテンツ」の作成を進めるなど、各校の利用に当たって中心となる教員が育ち始めてきた。
- ・開発委員が中心になって実践化を進めた結果、いくつもの学校で活用化が進み、観察・実験を基本にした理科授業の中で活用の仕方に深化がみられてきている。

(2) 今後の課題：更に次のこと等について実践を深める必要がある

- ・今後も開発委員が各校の中心になって、さらにデジタル教材を活用しての授業を進め、より身近な教材として活用できるようにしていく。
- ・理科の実技研修と共に、活用化について更に研修等を進める。
- ・効果的な活用法等についての情報を共有出来るよう、実践報告のサイトの活用化をさらにを進める。

VIII 実践事例

実践単元名：（新学習指導要領掲載順）

番号	学年	単元名
1	第3学年	豆電球にあかりをつけよう
2	3	豆電球にあかりをつけよう
3	3	こん虫をしらべよう
4	第4学年	空気と水の性質
5	4	とじこめた空気や水をおしてみよう
6	4	とじこめた空気や水をおしてみよう
7	4	わたしたちの理科室
8	4	温度をかえて、かさの変化を調べよう
9	4	温度をかえて、かさの変化を調べよう
10	4	人の体のつくりと運動
11	4	人の体のつくりと運動
12	4	星や月(2) 月は動くだろうか
13	4	星の明るさや色を調べよう
14	4	星の明るさや色を調べよう
15	4	星の明るさや色を調べよう

16	第5学年	てことつり合い
17	5	植物の実や種子のでき方
18	5	たんじょうのふしぎ
19	5	流れる水のはたらき
20	5	台風と天気の変化
21	5	台風と天気の変化
22	5	天気の変化
23	5	台風と天気の変化
24	第6学年	土地のつくりと変化
25	6	土地のつくりと変化
26	6	水溶液の性質
27	第1学年(中)	植物のくらしとなかま
28	第2学年(中)	電流の利用
29	第2学年(中)	磁石のまわりにはたらく力
30	第3学年(中)	運動とエネルギー
31	第3学年(中)	運動とエネルギー

Ⅹ 平成20年度 ひのっ子21 開発委員会

指導講師	信州大学	信州大学附属教育実践総合センタ	教授	東原義訓 先生
	信州大学	教育学部	準教授	三崎 隆 先生
開発委員会 委員長 (小学校部会長)		佐島 規	七生緑小学校	校長
委員長 (中学校部会長)		山田 悟志	日野第二中学校	校長
副委員長 (小学校部会副部会長)		木下 直人	仲田小学校	副校長
副委員長 (中学校部会副部会長)		渡邊 俊哉	大坂上中学校	副校長

委員	卜部 敦彦	日野第一小学校	主幹	上杉 園子	日野第二小学校	教諭
	藤垣 直志	日野第三小学校	教諭	栗木 勇	日野第四小学校	教諭
	亀田 貴彦	日野第五小学校	教諭	清水 彩子	日野第六小学校	教諭
	村田 夏樹	潤徳小学校	教諭	久保川香里	潤徳小学校	教諭
	佐藤ひとみ	平山小学校	教諭	長嶺香代子	日野第八小学校	教諭
	清水 智	滝合小学校	教諭	菅沼 直樹	日野第七小学校	教諭
	小屋 友樹	南平小学校	教諭	増田由香里	旭が丘小学校	教諭
	白土 朝子	東光寺小学校	教諭	吉田 直人	仲田小学校	教諭
	林 有里子	夢が丘小学校	教諭	丸山 隆	七生緑小学校	教諭
	永島 友和	日野第一中学校	教諭	宇都宮昌子	日野第二中学校	教諭
	岩井 陽子	日野第二中学校	教諭	櫻井 匡佐	七生中学校	主幹
	辰巳 恵子	日野第三中学校	主幹	古田 俊光	日野第四中学校	主幹
	船橋 聖一	日野第四中学校	教諭	関 孝喜	三沢中学校	教諭
	前田 博	大坂上中学校	教諭	行富健一郎	平山中学校	主幹

担当	統括指導主事	五十嵐俊子	日野市教育委員会 ICT活用教育推進室長
	指導主事	鈴木 基	日野市教育委員会教育部学校課
	庶務担当	大澤 真人	日野市立教育センター 所員

Ⅱ 研修部の事業

教職員研修係



I 日野市教育委員会主催研修会から

昨年4月よりスタートした研修会名と内容及び出席人数をお知らせします。

月	日	研 修 会 名	内 容	出席人数
4	3	学校組織マネジメントⅢ	日野市の教育施策について（新補・転補）	5名
5	1	幼児教育研修会	地域に根ざした幼稚園の子育て支援について	22名
5	1	学校組織マネジメントⅠ	学校評価の在り方	20名
5	2	情報安全教育研修会	ネットいじめの実態と対応	20名
5	2	学校組織マネジメントⅡ	学校評価の在り方	15名
5	2	学校組織マネジメントⅢ	学校の活性化と組織マネジメント	31名
5	3	授業力アップ研修会	2・3年次研修の計画と目的について	60名
6	2	幼児教育研修会	なぜ今、食育なのかー背景と取組ー	43名
7	2	専 門 研 修 全 体 会	新学習指導要領の目指す教育・講演会	571名
7	3	午前	教師としての専門性・講演会	542名
7	2	学校組織マネジメントⅠ	学校評価の在り方と方法	29名
7	2	学校組織マネジメントⅡ	学校評価の在り方と方法	24名
7	2	伝統文化教育研修会	国語科における古典の指導ポイント	2名
7	2	理数教育研修会	理科ねっとわーくの活用方法の理解	17名
7	2	言 語 教 育 研 修 会	NHK放送研修センターアナウンサー	42名
7	9	午前	「話す力・聞く力・読む力・伝え合う力」	22名
7	3	道徳教育研修会	道徳の授業・命の大切さを学ぶ	28名
7	3	郷土教育研修会	豊田地域の歴史と教材化について	23名
8	1	伝 統 文 化 教 育 研 修 会	国語科における古典の指導のポイント	7名
8	1	午前	古典文学の指導・落語	20名
8	4	環境教育研修会	日野市の自然についてフィールドワーク	21名
8	4	食育研修会	食生活と日野の伝統料理の調理	15名
8	7	生命尊重教育研修会	多摩動物公園にて生命尊重を学ぶ	10名
8	7	英語活動研修会	英語活動の実践事例を学ぶ	13名
8	2	特別支援教育	発達障害の理解	60名
8	2	授業力アップ研修会	自らの授業改善について	60名
8	2	授業力アップ研修会	自らの授業改善について	60名
8	2	特別支援教育	発達障害への支援方法	46名
8	2	英語活動研修会	英語活動の実践事例を学ぶ	9名
8	2	学校組織マネジメントⅢ	学校経営計画作成に向けて	35名
8	2	伝統文化教育	書写指導のポイントと実践について	6名
9	1	道徳教育研修会・心の教育研修会	授業を通じた道徳教育の在り方	21名
9	2	幼児教育研修会	幼小連携と教育現場の取組	25名
10	2	幼児教育研修会	幼小連携について	26名
10	9	情報安全教育研修会	ケータイ世界の子ども	20名
11	1	幼児教育研修会	認定子ども園への取組と現場から見た幼小連携	23名
11	6	人権教育研修会	人権教育の全体計画・年間指導計画の作成	21名
2	2	学校組織マネジメントⅢ	学校組織の活性化と主幹の役割	31名

II 2・3年次教員研修の実施について

8月21日・22日に行われた授業力の向上を図るために設定された研修会に、センター所属の所員が講師となった。研修を受ける教員は昨年と同様の60名である。

それぞれが前もって授業を改善するための手立てを用意し、2学期からの授業改善に生かせるようにすることが目的であり、わかる授業、魅力ある授業の実現のために、どこが達成でき、どこができていないか明らかにすることが求められる研修である。

一学期に自らの授業を撮影し、「自己の授業の問題点の発見」のためにその検証をする研修会であった。

2・3年次教員（以下受講者）60名を12のグループに分け、それぞれに所員が講師となり2日間同席してその指導をした。

2日目の全体発表会においては、受講者の研修成果が発表され、充実した2日間であったことが実証された形となった。

改善しなければならないことは、当日の指導に当たる講師数を確保することである。講師数が不足しているため班によって講師が不在となり、その班を指導主事が巡回して指導に当たっている。このために授業についての指導が受けられない受講者がでてくる。すべての受講者が、公平に指導を受けられる機会を作るべきである。このことは昨年も不足していたためその改善を求めたのであるがなされない。来年度はぜひ必要講師数を確保していただきたい。

酷暑の中、すべての受講者は熱心に研修をしていた。このことは本務校のご指導に感謝したい。

このほか、研修係所員は夏の研修以外にも学校を訪問し、グループ研修にも参加してきた。

III 今年度研修のひとこま



7月31日
郷土教育研修
豊田地域の歴史



8月27日
英語活動研修
教育センター



8月7日
生命尊重研修
多摩動物園



10月22日
幼児教育研修
四小

IV 平成20年度の研修サポートを振り返って

40名の初任者の授業観察もしてきたが、その日を待ち望んでいたとの声がある。担当者としてその要望に応えられたであろうか。これ以外にも研修係が行ってきた研修サポートについての現場の声をぜひ聞かせていただければ幸いである。

Ⅲ 相談部の事業 省略

資料

I 日野市立教育センター設置条例

(設置)

第1条 日野市における教育の充実及び振興を図るため地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、日野市立教育センター(以下「教育センター」という。)を設置する。

(名称及び設置)

第2条 教育センターの位置は、日野市程久保550番地とする。

(管理)

第3条 教育センターは、日野市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(事業)

第4条 教育センターは次の事業を行う。

- (1) 幼児、児童及び生徒の教育についての調査研究並びに学校教育、社会教育及び家庭教育の連携に関すること。
- (2) 教育における専門的、技術的事項の調査研究及び普及に関すること。
- (3) 学校教育及び社会教育関係者の研修に関すること。
- (4) 教育相談及び学校生活相談に関すること。
- (5) 不登校児童及び生徒に対する相談及び援助に関すること。
- (6) 教育の資料と情報の整備、保存及び活用に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事業。

(職員)

第5条 教育センターに所長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第6条 教育センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、休館日を変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
- (3) 1月2日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

(開館時間)

第7条 教育センターの開館時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(運営審議会)

第8条 教育センターの運営について必要な事項を審議するため、日野市立教育センター運営審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(審議会の委員)

第9条 前条に規定する審議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 教育行政機関関係者
- (4) 学識経験者
- (5) その他教育員委員会が必要と認める者

(委員の任期)

第10条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前条第1号から第3号までに掲げる者から選出された者の任期は、その在職期間とする。

3 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第11条 審議会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを決定する。

2 委員長及び副委員長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員長は、審議会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときはその職務を代行する。

(招集)

第12条 審議会は、必要に応じて委員長が招集する。

(議決)

第13条 審議会は、委員の半数以上が出席して成立し、その議事は、出席委員の過半数をもってこれを議決する。

(委任)

第14条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

付 則

(施行期日)

1 この条例は、平成16年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、教育委員会が規則で定める日から施行する。(日野市立教職員研究室設置条例の一部改正)

2 日野市立教職員研究室条例(平成5年条例第22号)の一部を改正する。〔次のよう〕略
(日野市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

3 日野市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和38年条例第13号)の一部を次のように改正する。〔次のよう〕略

II 日野市立教育センター設置条例施行規則

(目的)

第1条 この規則は、日野市立教育センター設置条例(平成15年条例第46号)の施行について必要な事項を定める事を目的とする。

(職員)

第2条 日野市立教育センター(以下「教育センター」という。)に所長のほか、次の職員を置くことができる。

(1) 主任研究員 (2) 事務長 (3) 専門職員 (4) その他必要な職員

(所長の任務)

第3条 所長は、上司の命を受け、教育センターの事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

2 所長は、次の事項を専決する。

(1) 教育センター運営の実施計画に関すること。

(2) 主任研究員及び事務長の出張、研修命令及び休暇に関すること。

(3) 教育センター全体に係わる定例的な事項に関する報告、公表、申請、照会、回答、諮問及び通知に関すること。

(主任研究員、事務長及び職員の任務)

第4条 主任研究員は、所長の命を受け、調査研究、研修及び相談業務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

2 事務長は、所長の命を受け、教育センターの庶務事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

3 主任研究員及び事務長の専決事項については、日野市教育委員会事務局事務決裁規程（平成16年教育委員会規則第7号）第9条の規程を準用する。

4 専門職員その他の職員は、上司の命を受け、教育センターの事務に従事する。

（部及び事務分掌）

第5条 教育センターの部及び事務分掌は、次のとおりとする。

調査研究部

- (1) 学校制度及び学校経営の調査研究に関すること。
- (2) 教育課程の調査研究に関すること。
- (3) ふるさと（郷土日野）教育の調査研究に関すること。
- (4) 生涯学習の調査研究に関すること。
- (5) 教育資料の収集、提供及び教育広報に関すること。
- (6) 前号に掲げるもののほか、調査研究に関すること。

研修部

- (1) 学校教育職員の研修に関すること。
- (2) 社会教育者（地域リーダー）の研修に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、研修に関すること。

相談部

- (1) 幼児、児童及び生徒の教育相談並びに教職員の相談に関すること。
- (2) 学校生活（適応）についての相談及び援助に関すること。
- (3) 電話等による教育相談に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、相談に関すること。

事務部

- (1) 教育センターの庶務に関すること。
- (2) 他の部に属さない事務に関すること。

（委任）

第6条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が別に定める。

付 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

Ⅲ 「日野市適応指導教室設置要綱(全文)」

（目的）

第1条 この要綱は、さまざまな要因により学校生活に適応できず、長期間の欠席状況にある児童・生徒に対して社会的自立及び学校復帰の援助を図ることを目的とする。

（設置）

第2条 前条の目的を達成するために、適応指導教室を設置する。

2 適応指導教室の名称は「わかば教室」とする。

第3条 第1条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 一人ひとりの児童・生徒に応じた社会的体験や学習活動を援助し、精神的な安定、好ましい人間関係、集団への適応能力、学習意欲、望ましい生活習慣等の回復を図る。
- (2) 学校不適応児童・生徒の理解や対応のあり方について、学校及び保護者との相談を行う。
- (3) 学校、日野市教育相談室、スクールカウンセラー、その他関係機関との連携を図る。
- (4) その他、教育長が必要と認める事業を行う。

（組織）

第4条 適応指導教室は、日野市立教育センターが所管し、指導員及びカウンセラーを置く。

（入室対象者）

第5条 入室対象者は、次の要件を満たす児童・生徒とする。

- (1) 日野市公立小・中学校に在籍する児童・生徒
- (2) 不登校及びその傾向にある児童・生徒
- (3) 保護者及び本人が入室を希望し、日野市教育委員会教育部学校課長（以下「学校課長」という。）が認めた児童・生徒

（開設日及び開設時間等）

第6条 開設日は月曜日から金曜日とし、開設時間は9時から4時までとする。

ただし、日野市立教育センター所長（以下「センター所長」という。）が特に必要があると認めたときは、開設日及び開設時間を変更することができる。

- 2 日野市公立学校の休業日（都民の日及び在籍校の開校記念日を除く。）及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日は休業日とする。ただし、センター所長が特に必要があると認めたときは、この限りではない。

（通室）

第7条 通室方法や通室往復途上の安全確保については、保護者の責任において行う。

（入室・退室手続き）

第8条 入室を希望する児童・生徒の保護者は日野市適応指導教室入室願（第1号様式）を在籍校の校長に提出する。

- 2 前項の規定による届出を受けた校長は日野市適応指導教室入室申請書（第2号様式）を学校課長に提出する。

- 3 学校課長は、入室の可否について、児童・生徒の在籍校の校長、指導主事及び適応指導教室指導員が協議した結果をもとに決定する。

- 4 学校課長は入室を許可した場合は、入室許可書を学校長とセンター所長に通知する。（第3号様式）

- 5 退室する場合は、保護者は日野市適応指導教室退出願（第4号様式）を在籍校の校長に提出する。

- 6 前項の規定による届出を受けた校長は日野市適応指導教室退室申請書（第5号様式）を学校課長に提出する。

- 7 学校課長は退室を許可した場合は、退室許可書を学校長とセンター所長に通知する。（第6号様式）

（学校との連携）

第9条 センター所長は在室児童・生徒について、通室状況報告書（題7号様式）を作成し、在籍校の校長に報告する。

- 2 在籍校の校長は、学校の教育計画や教育活動等をセンター所長に提出し学校復帰の協力をする。

（事故の対応）

第10条 適応指導教室の管理下で通室児童・生徒に事故が発生したときは、在籍校の校長はセンター所長からの事故報告に基づき日本体育・学校保健センターの医療費等の支給を申請する。

（委任）

第11条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は他に定める。

付 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

付 則（平成15年6月2日）

この要綱は、平成15年6月2日から施行する。

付 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

編集後記

平成 20 年度日野市立教育センター紀要「第 5 集」を発刊する運びとなりました。

日野市立教育センターが開設されて、早や 5 年となります。これも、日野市および日野市教育委員会をはじめ各関係機関のお陰だと感謝申し上げます。

教育センターは、日野市の新たな教育課題や施策に活かし得るシンクタンクとして、調査研究部、研修部、相談部の三つの部を中心に事業を行っております。

そこで、事業内容をお知らせするため、今年度取り上げた調査・研究課題について、その方法・内容と成果を具体的にお示しする方向で、センター紀要「第 5 集」をまとめてまいりました。

どうぞご高覧いただければ幸いに存じます。

本年度、日野市立教育センター事業および、同紀要発刊に関して温かくご指導いただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、ご多忙のところ「教育センターそして学校教育基本構想」のテーマで原稿をお寄せいただきました教育長加島俊雄先生をはじめ研究の趣旨などをまとめてくださった先生方に心よりお礼申し上げます

<編集委員>

編集長	篠原 昭 雄
教育センター所長	
主任研究員	浮 須 勇 人
指導主事	鈴 木 基
事務長	半 田 実
教育センター所員	品 田 敏 男
教育センター所員	田 澤 茂
教育センター所員	河 村 好 人
教育センター所員	木 内 秀 雄
教育センター所員	二 馬 誠 志 郎

日野市立教育センター紀要 第 5 集

発行日	平成 21 年 3 月 31 日
発 行	日野市立教育センター
	所長 篠原 昭 雄
	〒191-0042 日野市程久保 550
TEL	042-592-0505
FAX	042-592-1148
Eメール	: k-center@city.hino.lg.jp
URL	: www.hino-kyo.ed.jp/center/



バ ス…高幡台団地下車 徒歩 5 分
多摩都市モノレール…程久保駅 徒歩 7 分
京王線…高幡不動駅 徒歩 20 分